

「動物愛護及び管理に関するアンケート調査」調査結果

「山梨県動物愛護管理推進計画」の見直しにあたり、県民の皆様のペットの飼育状況や飼育に関する意識などを把握し、より一層充実した動物愛護及び管理に関する施策を実施していくため、県政モニターによるアンケート調査を実施しました。

1 アンケート調査の実施時期

令和2年6月

2 県政モニター数

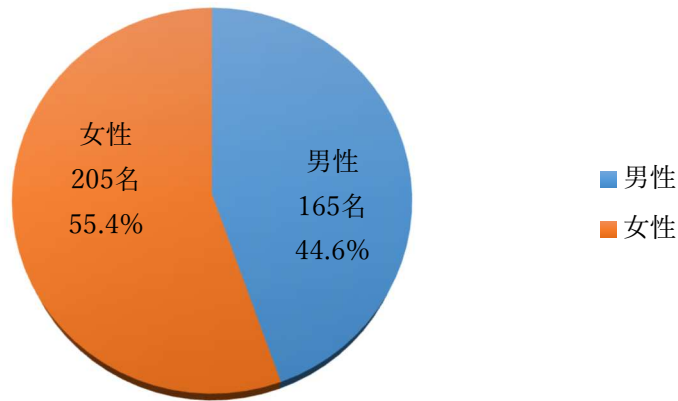
(1)一般モニター(郵送によるアンケート調査)	224名
(2)インターネットモニター(電子メールによるアンケート調査)	189名
合計	413名

3 回答数

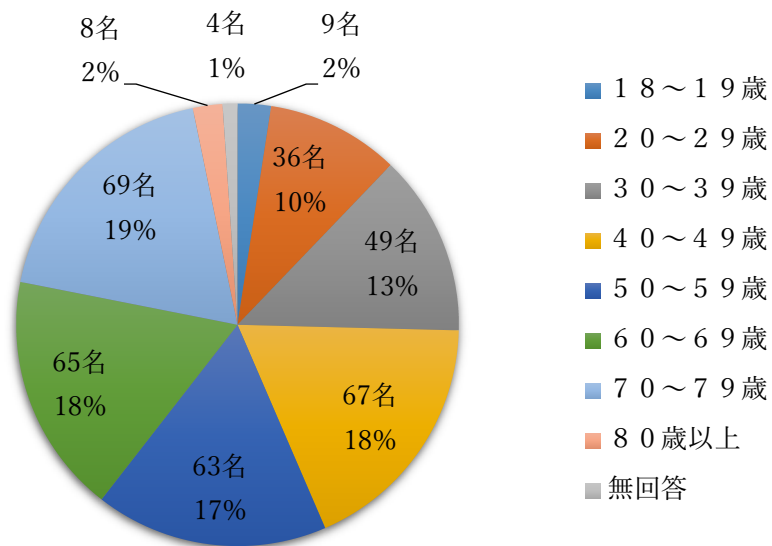
(回答率)

(1)一般モニター(郵送によるアンケート調査)	210名(93.8%)
(2)インターネットモニター(電子メールによるアンケート調査)	160名(84.7%)
合計	370名(89.6%)

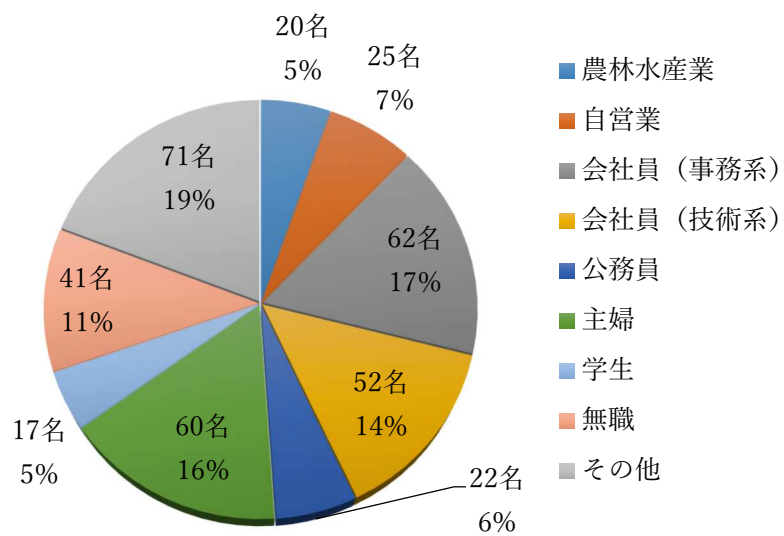
【性別】



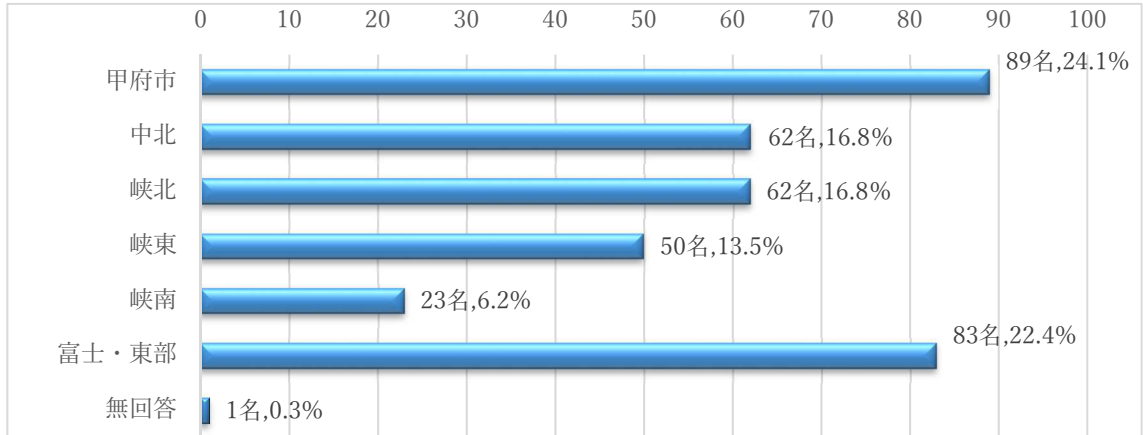
【年齢】



【職業】

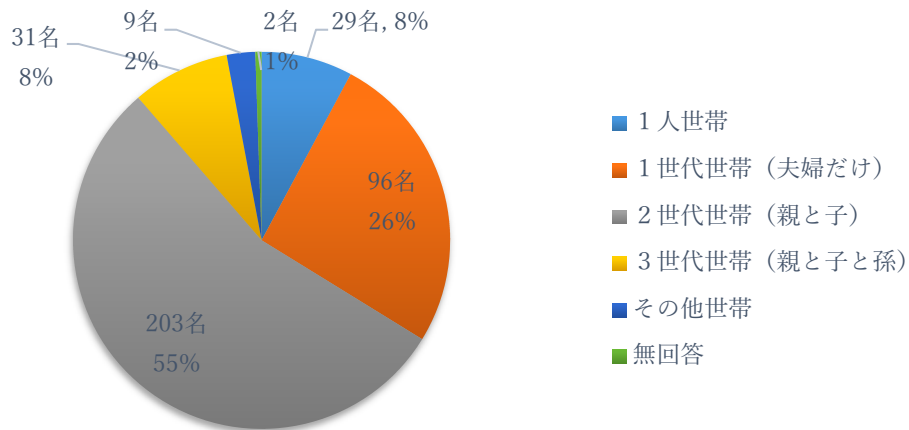


【住んでいる地域】

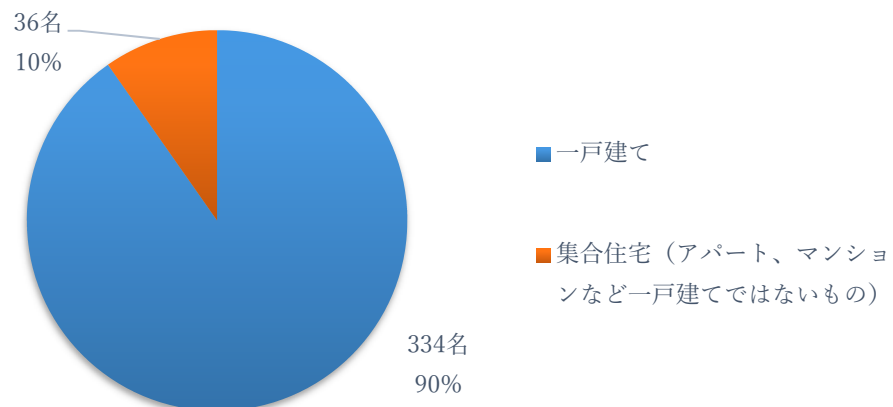


- ・中北 : 甲斐市、中央市、昭和町
- ・峡北 : 韮崎市、南アルプス市、北杜市
- ・峡東 : 山梨市、笛吹市、甲州市
- ・峡南 : 市川三郷町、富士川町、早川町、身延町、南部町
- ・富士・東部: 富士吉田市、都留市、大月市、上野原市、富士河口湖町、西桂町、鳴沢村、山中湖村、忍野村、道志村、小菅村、丹波山村

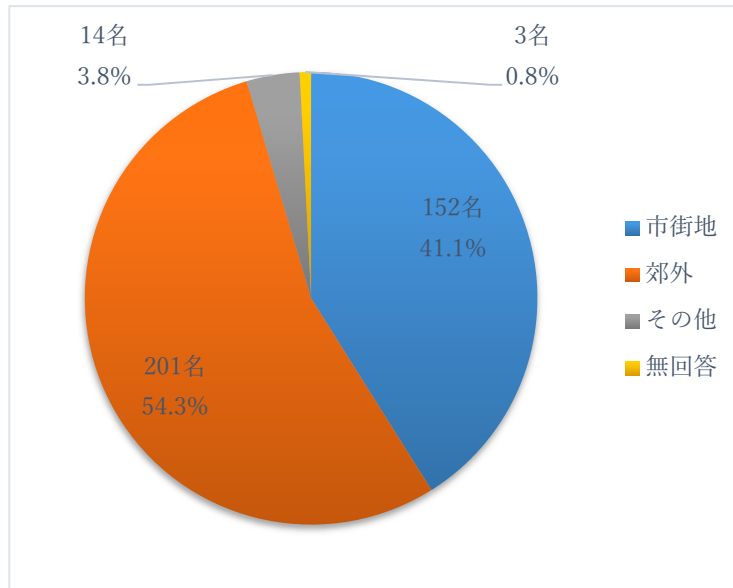
【世帯構成】



【住宅の形態】



【住まいの周辺環境】

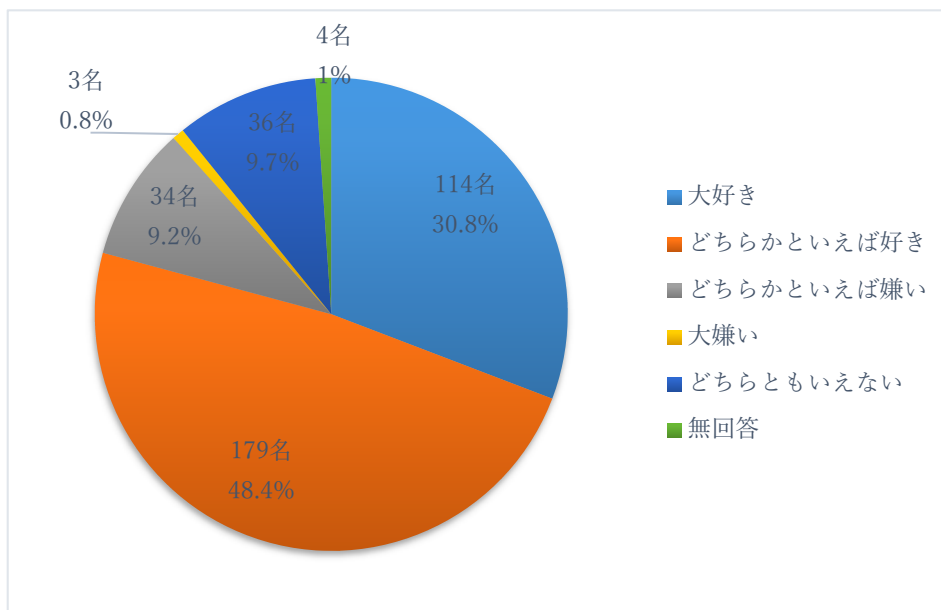


問1 あなたは動物が好きですか。(n=370)

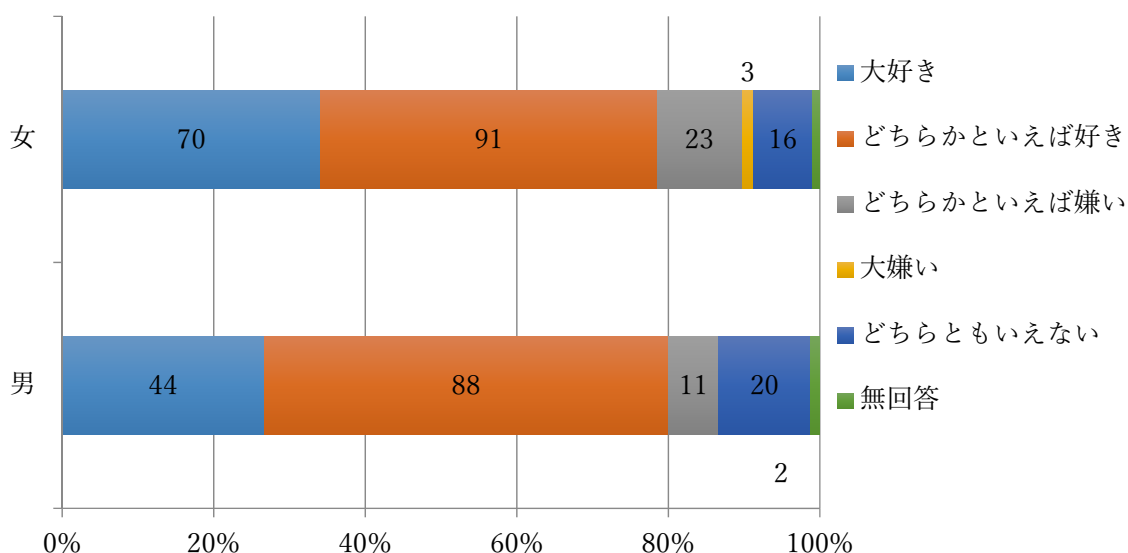
【調査結果】

- ・「好き」とする人の割合が293名(79.2%) [「大好き」+「どちらかといえば好き」]、「嫌い」な人の割合が37名(10.0%) [「大嫌い」+「どちらかといえば嫌い」]であった。
- ・性別でみると女性より男性の方が「好き」とする人の割合がやや高くなっている。
- ・年齢別でみると、「好き」とする人の割合は18～19歳、30～39歳及び50～59歳が高く、「嫌い」とする人の割合は、80歳以上で高くなっている。

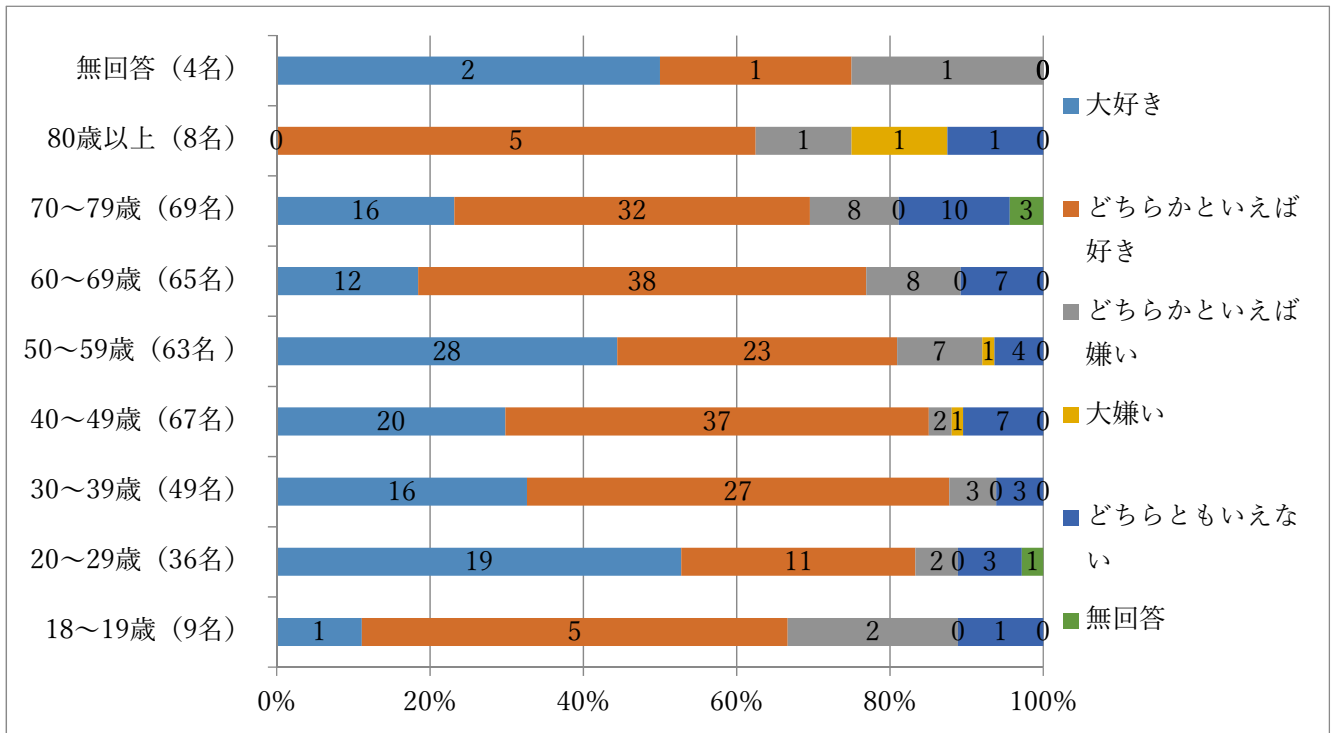
【全体】



【性別クロス分析】



【年齢別クロス分析】

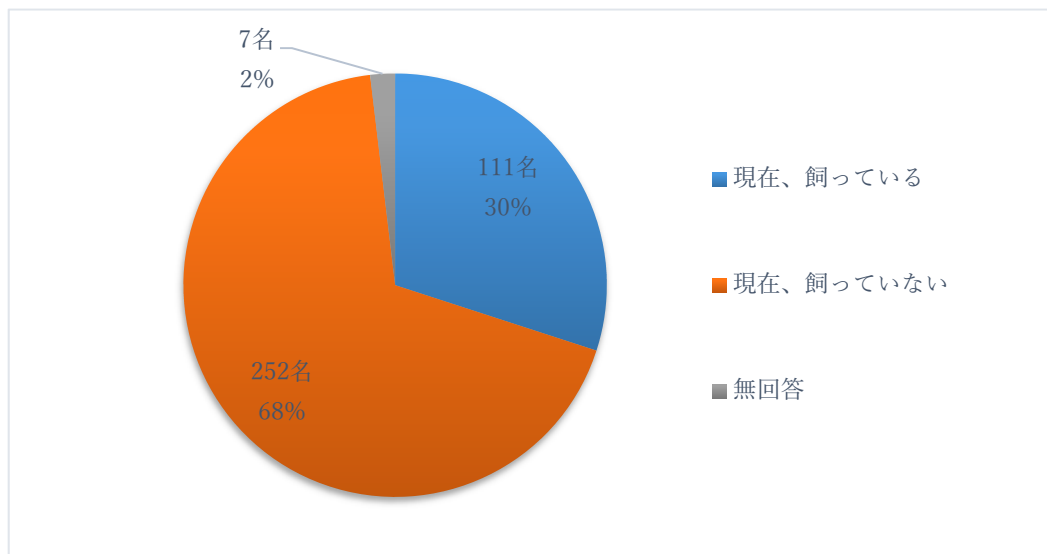


問2 あなたはペットを飼っていますか。(n=370)

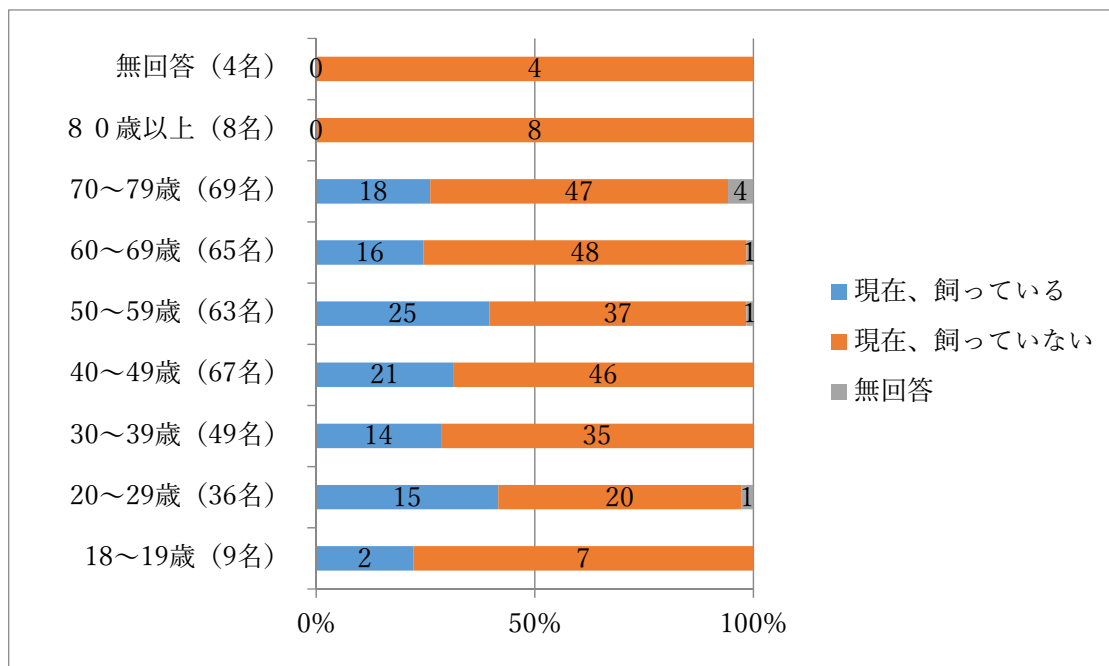
【調査結果】

- ・ 「飼っている」人の割合が111名(30.0%)、「飼っていない」人の割合が252名(68.1%)であった。
- ・ 年齢別で見ると、「飼っている」人の割合は20~29歳で41.7%(15名)、と高い一方、80歳以上は0%(0名)であった。
- ・ 世帯構成別で見ると、「飼っている」人の割合はその他の世帯(親族関係にない世帯)で、55.6%(5名)、3世代世帯が45.2%(14名)で、1世代世帯32.3%(31名)、2世代世帯が28.6%(58名)、1人世帯10.3%(3名)より高くなっている。
- ・ 住宅形態別で見ると、「飼っている」人の割合は集合住宅より一戸建てで高くなっている。

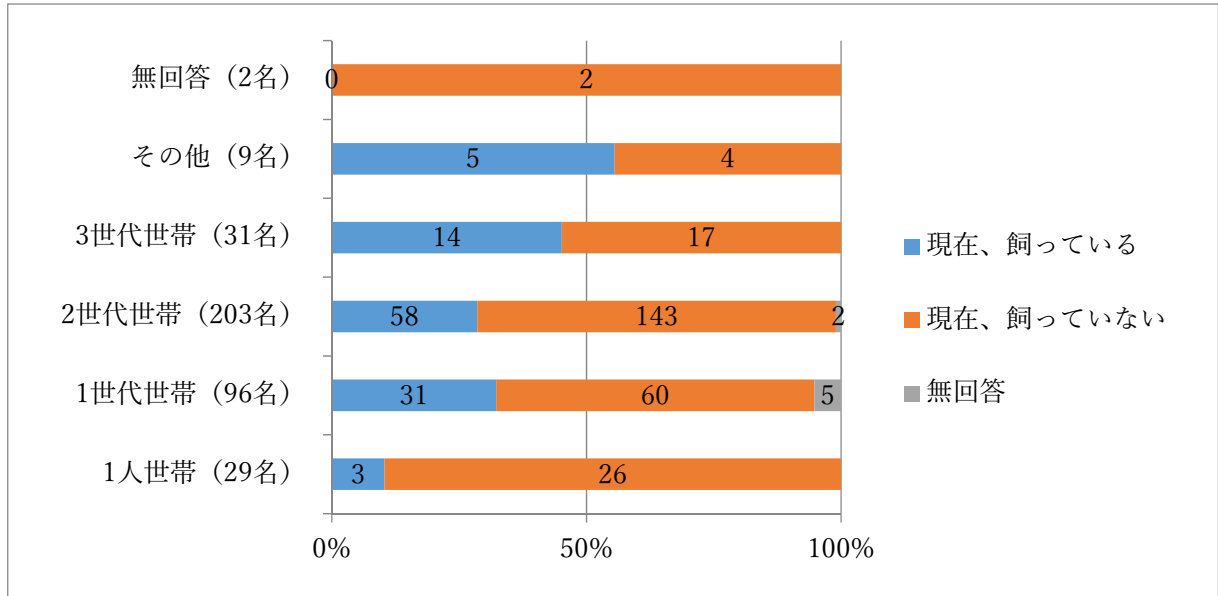
【全体】



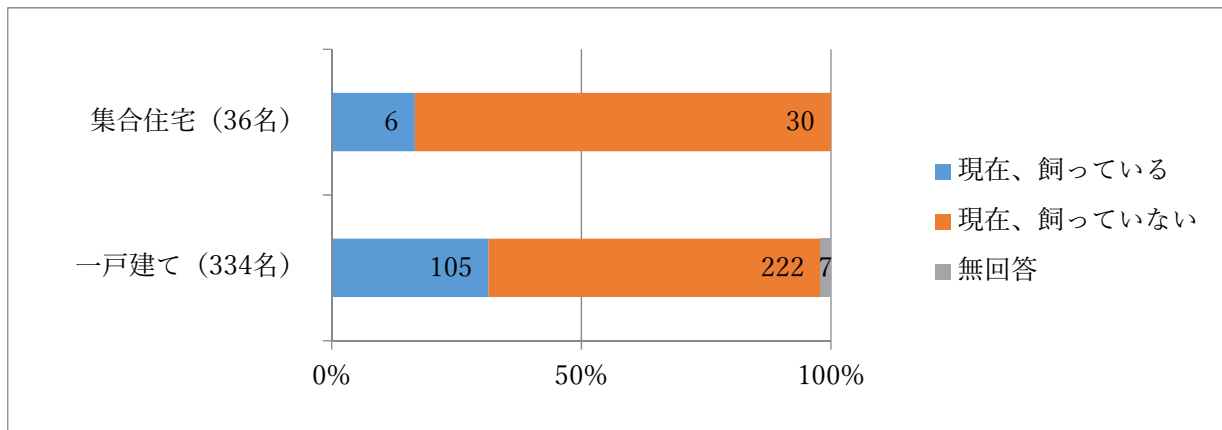
【年齢別クロス集計】



【世帯構成別】



【住宅形態別】



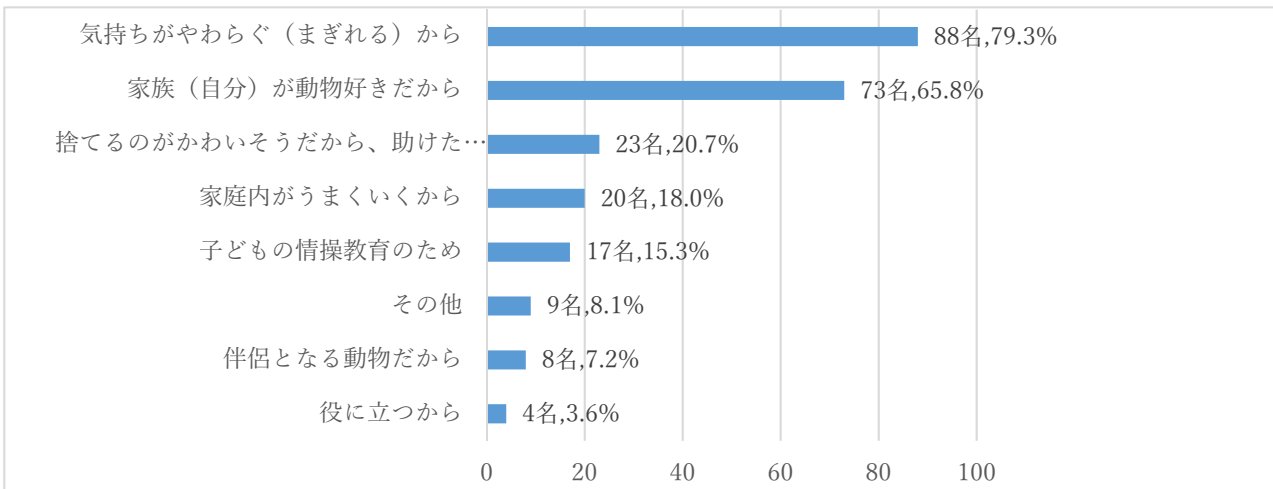
ペットを飼われている方におたずねします。

問3 あなたがペットを飼う理由はなんですか。（n=111）【複数回答有】

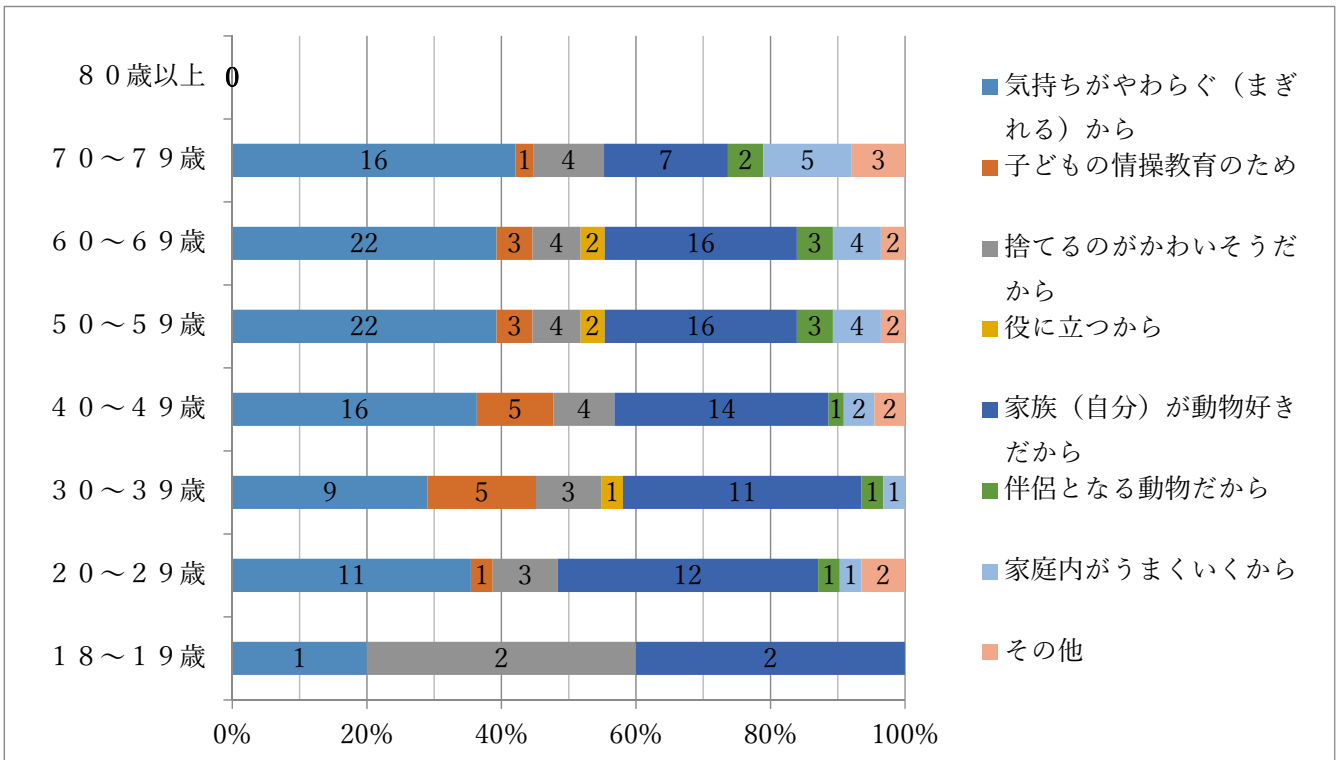
【調査結果】

- ・ ペットを飼っている理由は「気持ちがやわらぐ(まぎれる)から」が88名(79.3%)、「家族(自分)が動物好きだから」73名(65.8%)が高くなっている。
- ・ 年齢別でみると、各年代で「気持ちがやわらぐ(まぎれる)から」、「家族(自分)が動物好きだから」が高く、また、「子どもの情操教育のため」は30～39歳で高くなっている。

【全体】



【年齢別クロス集計】

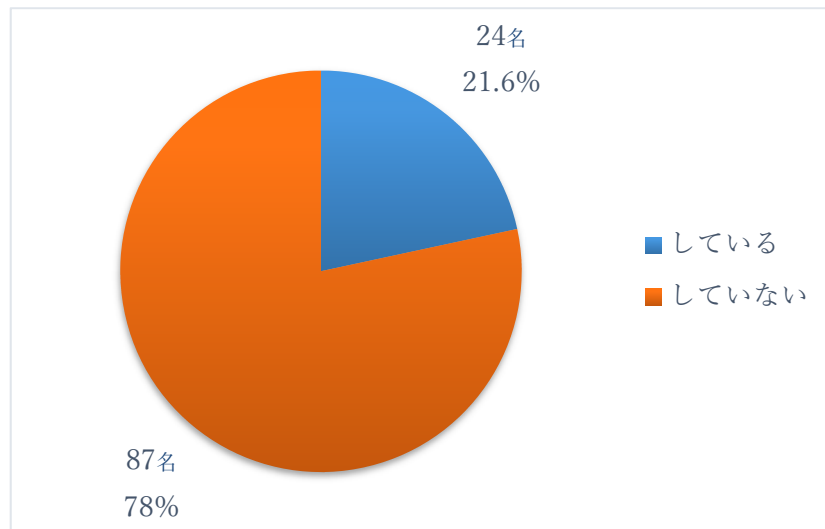


問4 地震や水害などの災害に被災した時の為に、ペットへの対策を準備していますか。
(n=111)

【調査結果】

・準備を「している」が24名(21.0%)、「していない」が87名(79.0%)であった。

【全体】



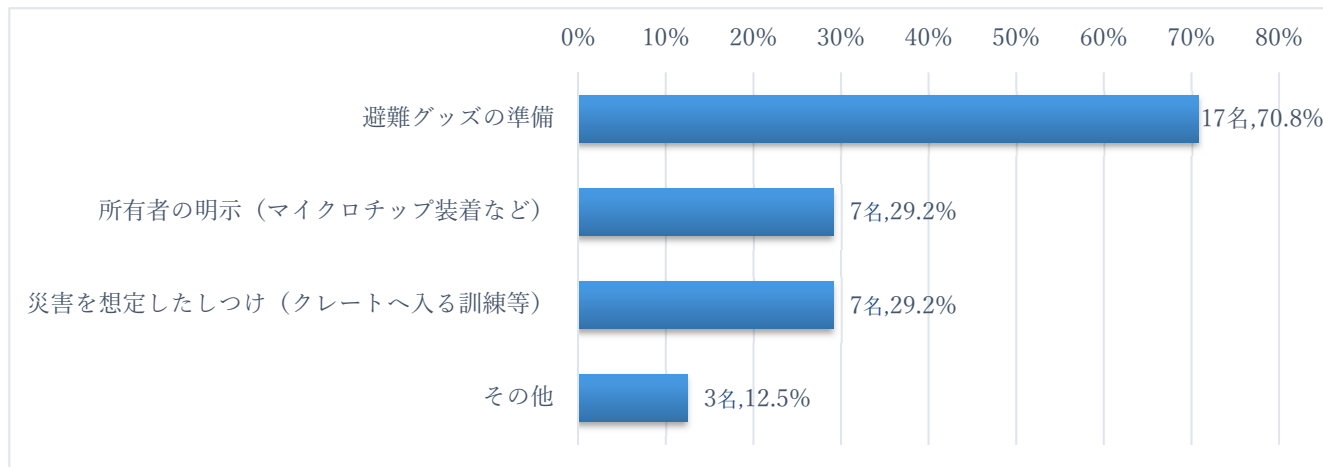
問5 問4で「ア している」を選択した方にお聞きします。

被災した時の対策にどのような準備をされていますか。(n=24) 【複数回答有】

【調査結果】

・「避難グッズの準備」が17名(70.8%)と最も多く、「所有者の明示」、「災害を想定したしつけ」がそれぞれ7名(29.2%)となっている。

【全体】

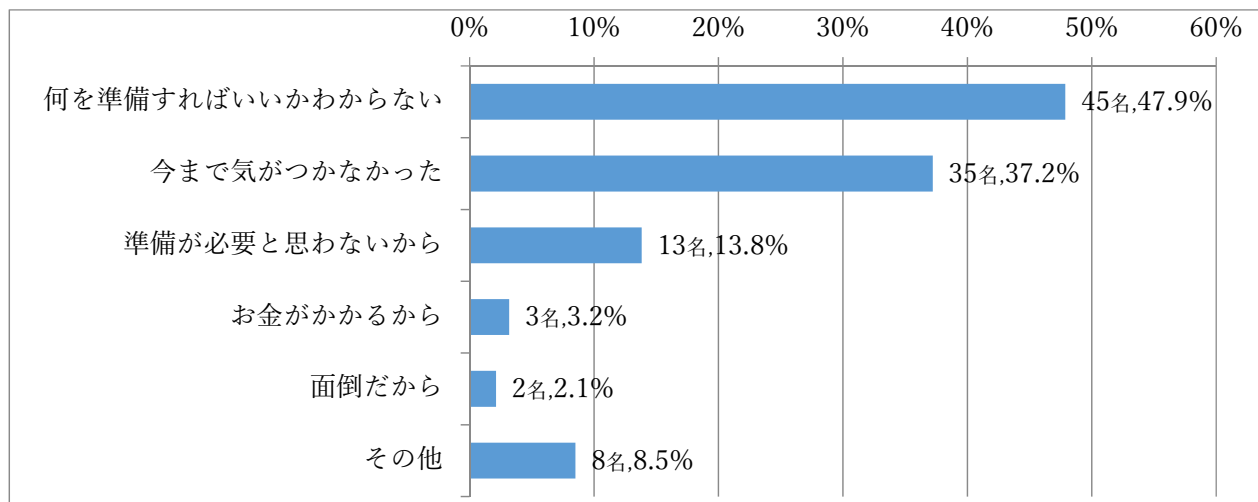


問6 問4で「イ していない」を選択した方にお聞きします。
準備をしていない理由はなんですか。(n=87)【複数回答有】

【調査結果】

- ・ 「何を準備すればいいかわからないから」が45名(47.9%)と最も高く、「今まで気がつかなかった」が35名(37.2%)、「準備が必要と思わないから」が13名(13.8%)の順となっている。

【全体】

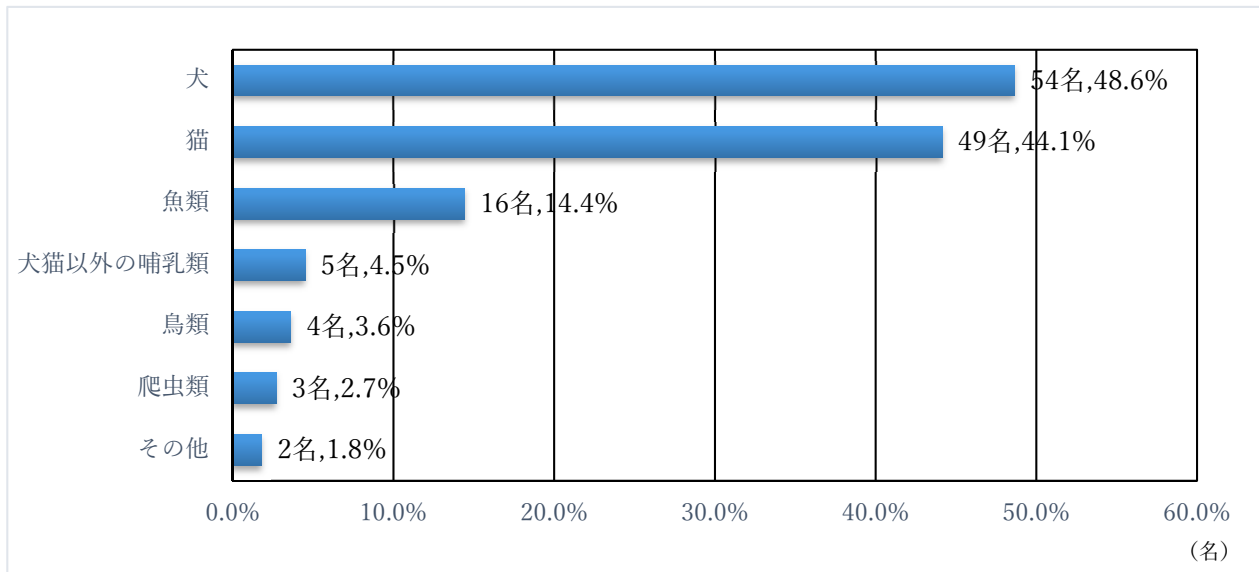


問7 飼っているペットの種類はなんですか。(n=111) 【複数回答有】

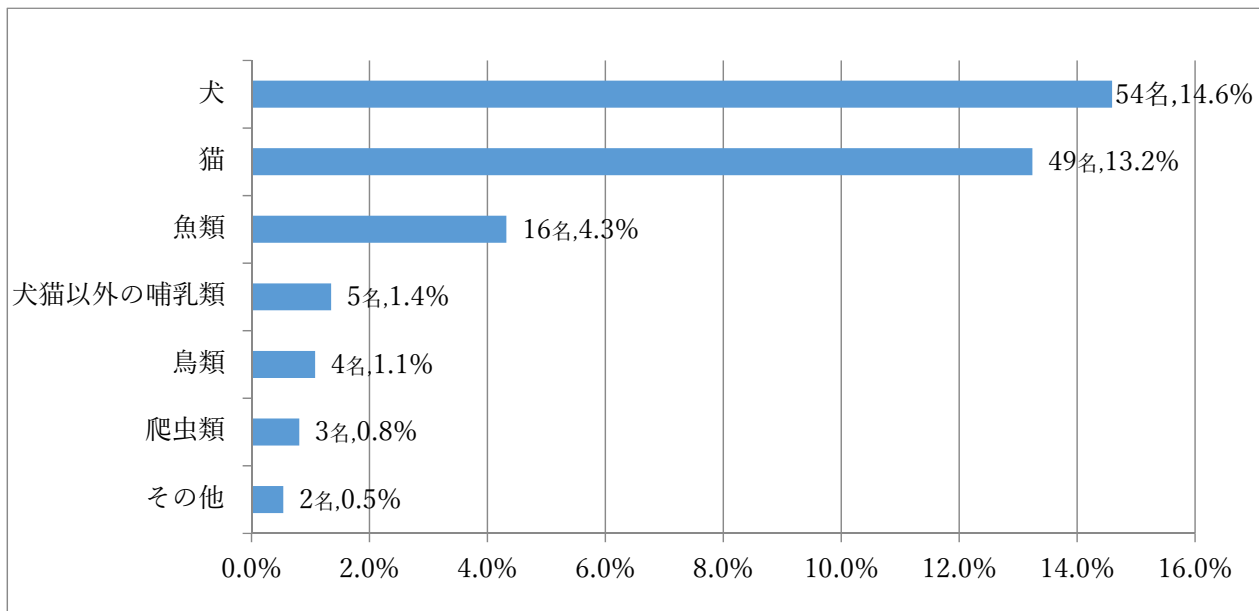
【調査結果】

- ・ 飼っているペットの種類は「犬」が 54 名(48.6%)と最も高く、「猫」が 49 名(44.1%)、「魚類」が 16 名(14.4%)の順となっている。
- ・ 全世帯に対し、ペットを飼っている人の割合は、「犬」が 14.6%、「猫」が 13.2%及び「魚類」が 4.3%の順となっている。

【飼っているペットの種類】



【全世帯に対する割合】

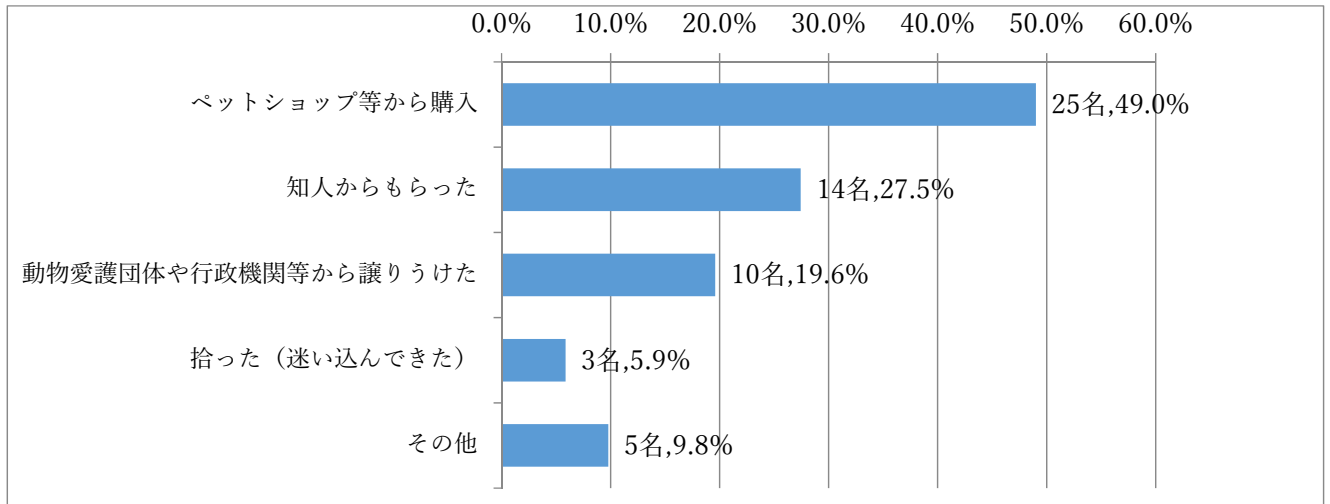


犬を飼われている方におたずねします。(問8～問14)

問8 どのようにして犬を入手しましたか。(n=54) 【複数回答有】

【調査結果】

- ・ 「ペットショップ等から購入」が25名(49.0%)と最も高く、次に「知人からもらった」が14名(27.5%)、「動物愛護団体や行政機関等から譲り受けた」が10名(19.6%)の順となっている。

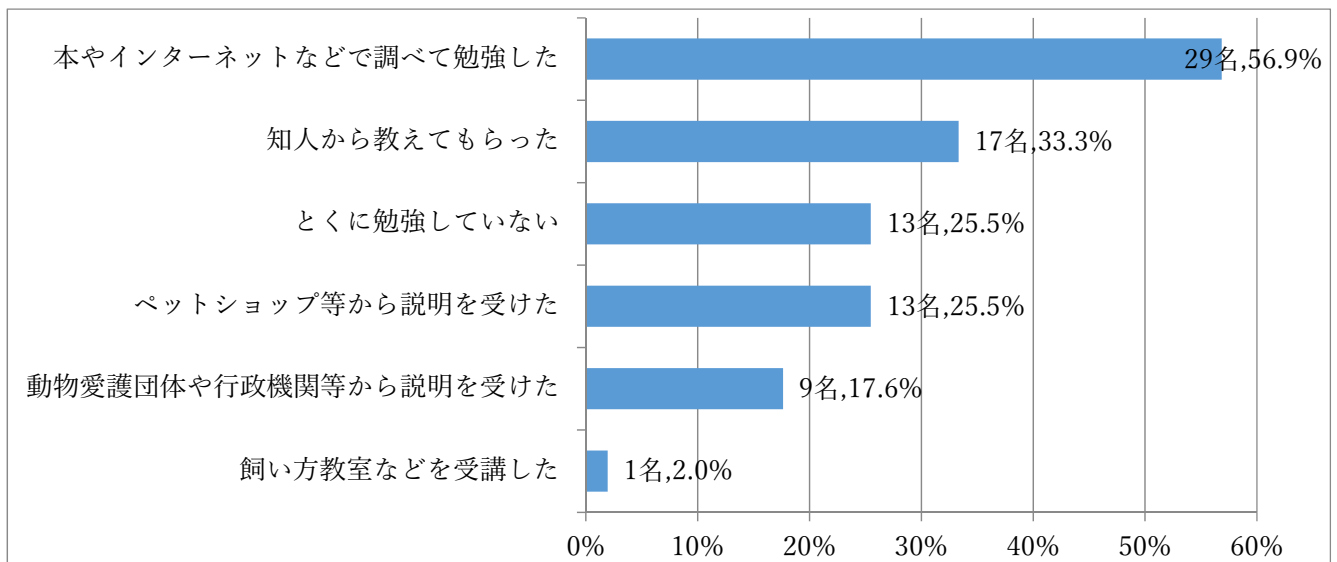


問9 犬を飼う前に、犬の特徴や性質、飼い方しつけ方などをどのように知りましたか。
(n=54) 【複数回答有】

【調査結果】

・「とくに勉強していない」人は13名(25.5%)であった。勉強している人では「本やインターネットなどで調べて勉強した」29名(56.9%)、「知人から教えてもらった」17名(33.3%)、「ペットショップ等から説明を受けた」13名(25.5%)の順が多かった。

【全体】

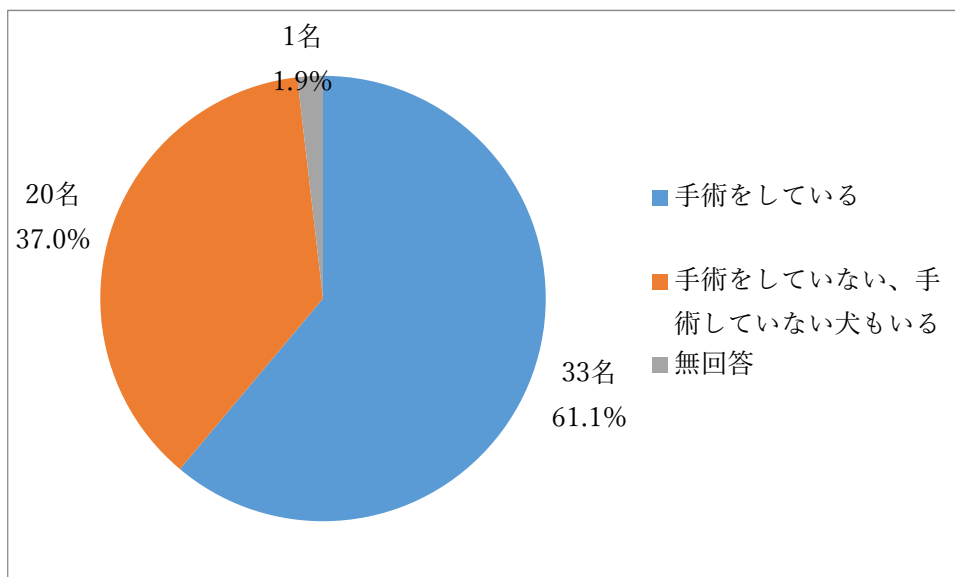


問10 飼い犬に、不妊・去勢手術をしていますか。(n=54)

【調査結果】

・「手術をしている」が 33 名 (61.1%)、「手術をしていない、手術していない犬もいる」が 20 名 (37.0%) であった。

【全体】

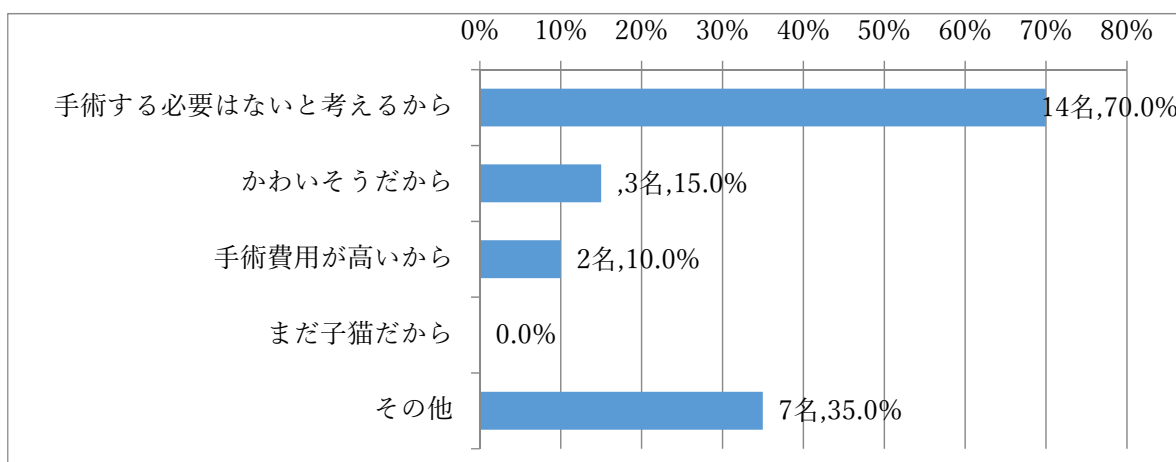


問11 問10で「イ 手術していない、手術していない犬もいる」を選択された方にお聞きします。手術をしていない理由はなんですか。(n=20)【複数回答有】

【調査結果】

・「手術する必要はないと考えるから」14名(70.0%)が最も高く、「かわいそうだから」3名(15.0%)、「手術費用が高いから」2名(10.0%)、「その他」7名(35.0%)となっている。

【全体】



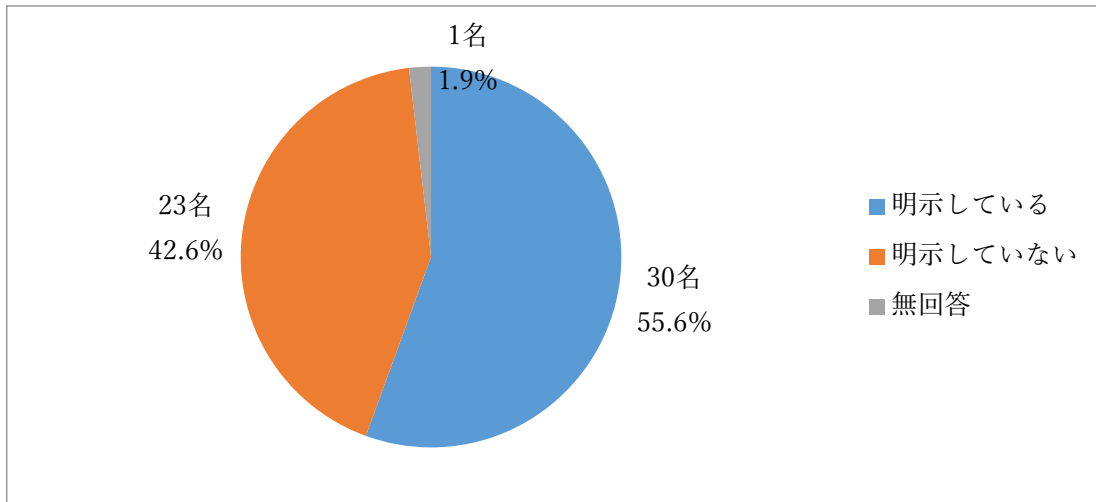
問 1 2 飼い犬に、飼い主が誰であるかわかるよう所有者の明示をしていますか。(n=54)

【調査結果】

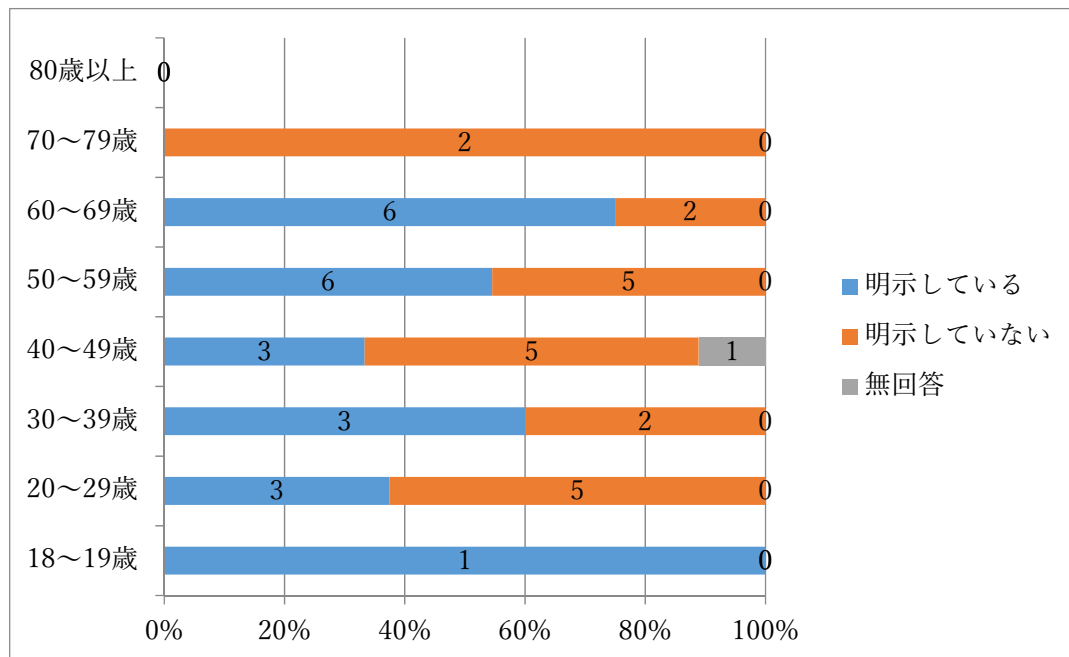
・30名(55.6%)が所有者の明示をしている。

・年齢別でみると、「明示している」人の割合は60歳～69歳で高く、「明示していない」人の割合は20～29歳、50～59歳で高くなっている。

【全体】



【年代別クロス分析】

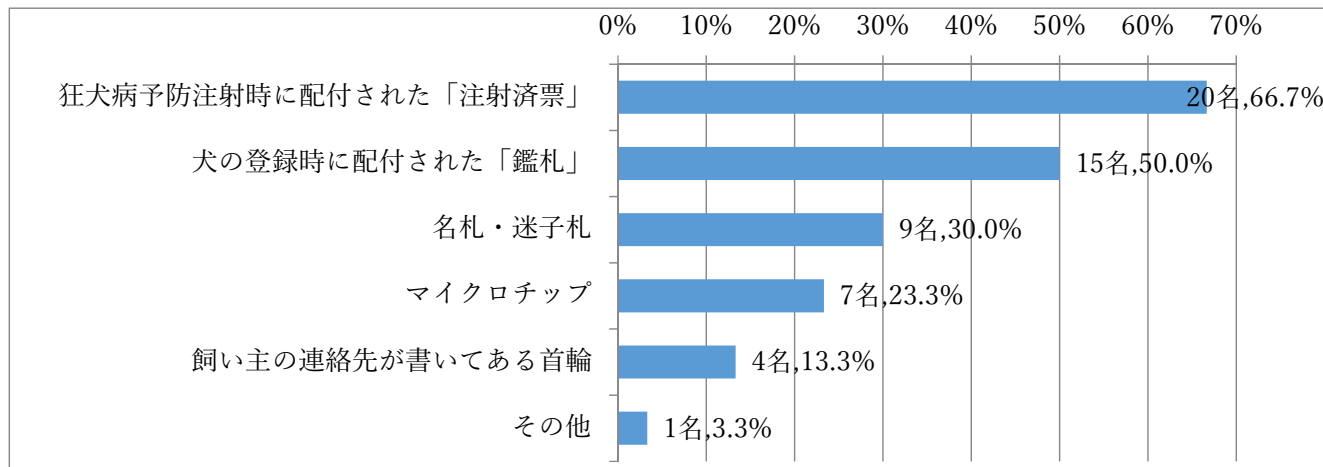


問13 問12で「ア 明示している」を選択された方にお聞きします。
どのような方法で明示していますか。(n=30) 【複数回答有】

【調査結果】

・「狂犬病予防注射時に配付された『注射済票』」、「犬の登録時に配付された『鑑札』」、「名札・迷子札」、「マイクロチップ」の順で多かった。

【全体】

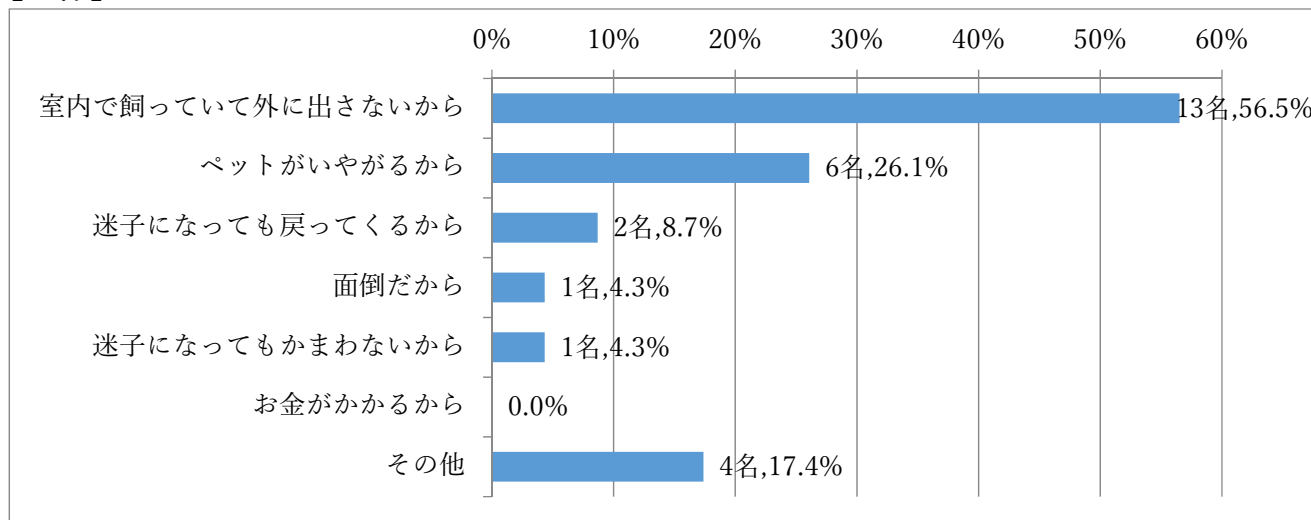


問13 問12で「イ 明示していない」を選択された方にお聞きします。
明示していない理由は何ですか。(n=23) 【複数回答有】

【調査結果】

・「室内で飼っていて外に出さないから」の割合が最も高く、13名(56.5%)であり、続いて、「ペットがいやがるから」6名(26.1%)と続いた。

【全体】



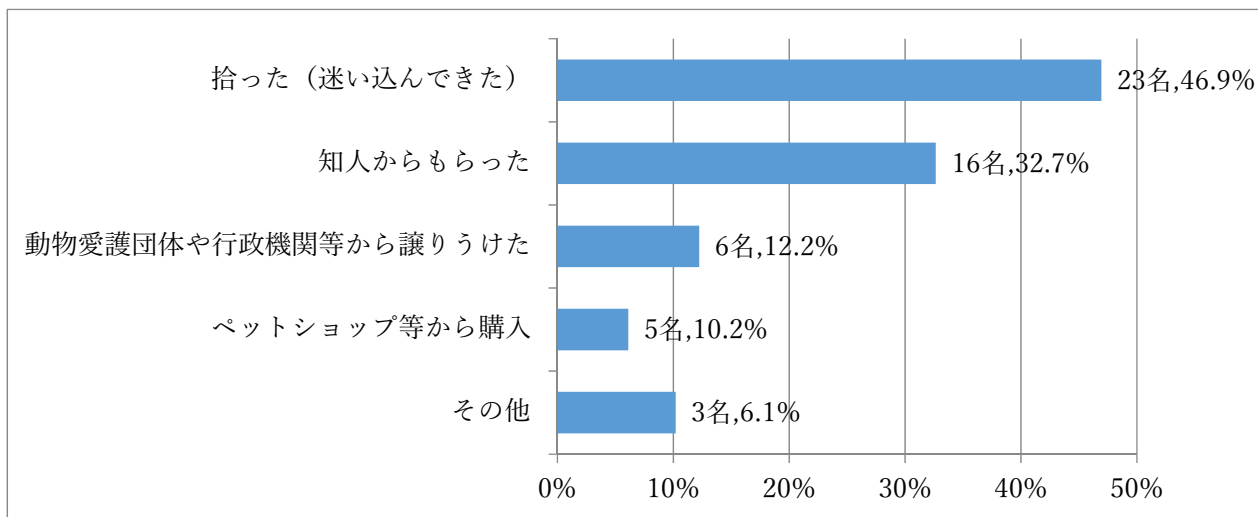
猫を飼われている方におたずねします。(問15～問23)

問15 どのようにして猫を入手しましたか。(n=51) 【複数回答有】

【調査結果】

・「拾った」が 23 名(46.9%)と最も多く、「知人からもらった」が 16 名(32.7%)、「動物愛護団体や行政機関等から譲りうけた」が 6 名(12.2%)と続いた。

【全体】

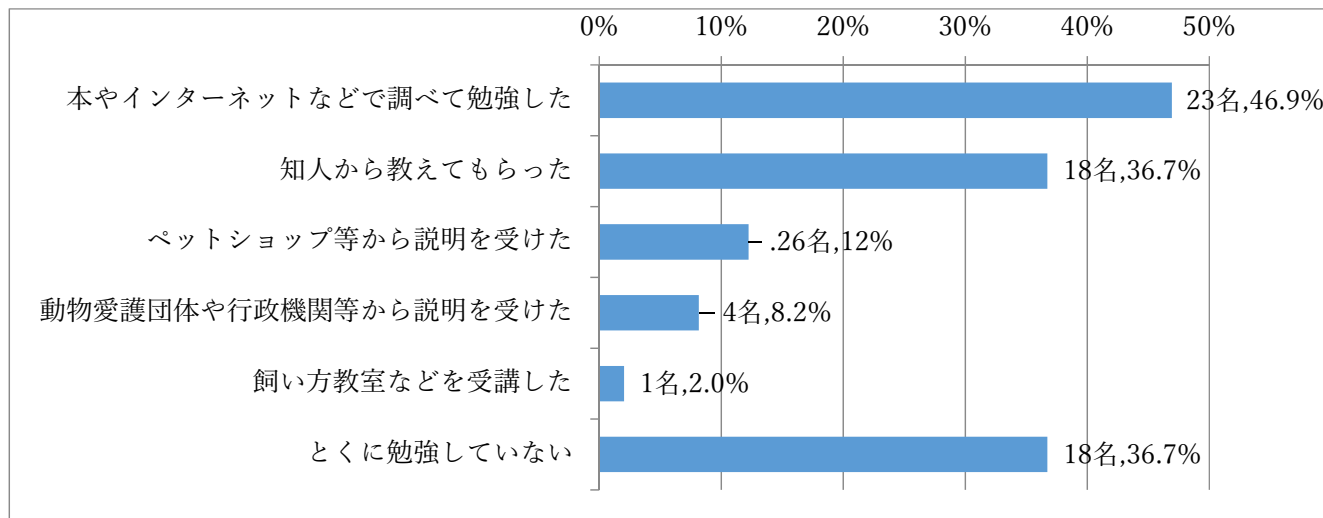


問16 猫を飼う前に、猫の特徴、性質や飼育方法をどのように知りましたか。
(n=20) 【複数回答有】

【調査結果】

・「本やインターネットなどで調べて勉強した」が 23 名(46.9%)と最も高く、「とくに勉強していない」が 18 名(36.7%)、「知人から教えてもらった」が 18 名(36.7%)と続いた。

【全体】

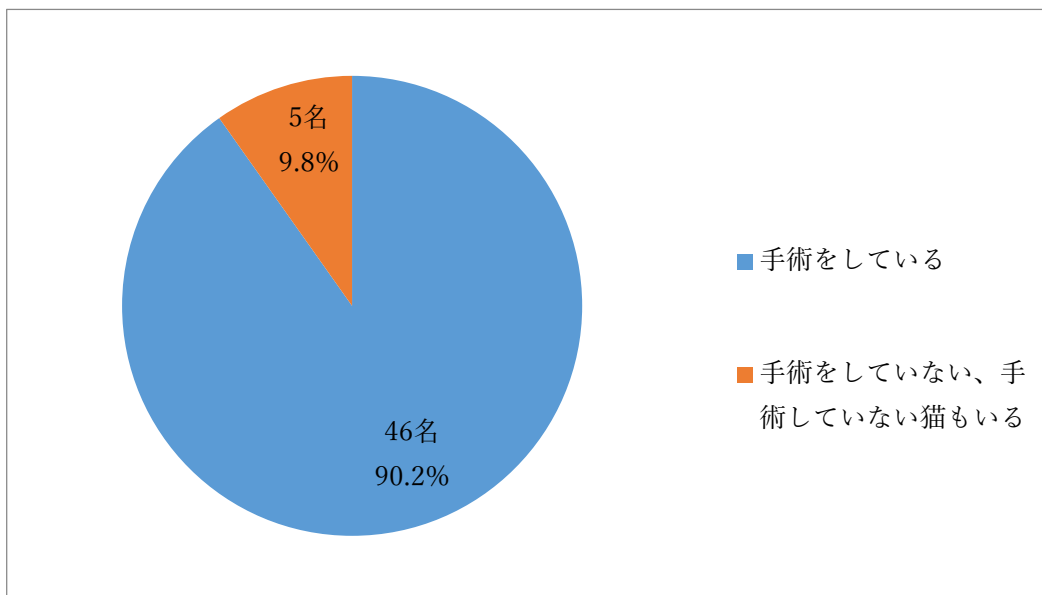


問 17 飼い猫に、不妊・去勢手術をしていますか。(n=51)

【調査結果】

・「手術をしている」が 46 名(90.2%)であり、「手術をしていない、手術をしていない猫もいる」が 5 名(9.8%)であった。

【全体】

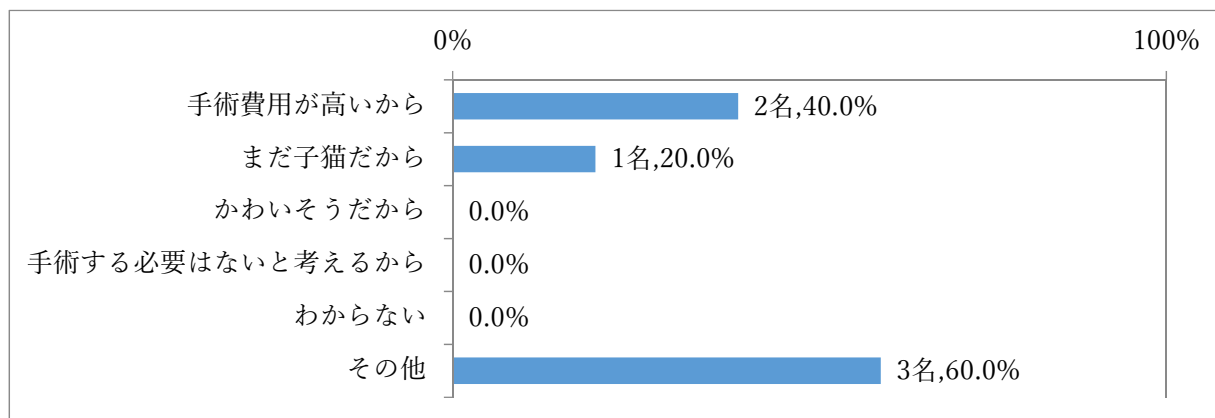


問18 問17で「イ 手術をしていない、手術をしていない猫もいる」を選択された方にお聞きします。手術をしていない理由は何ですか。(n=5) 【複数回答有】

【調査結果】

・「手術費用が高いから」が2名(40.0%)、「まだ子猫だから」が1名(20.0%)であった。

【全体】

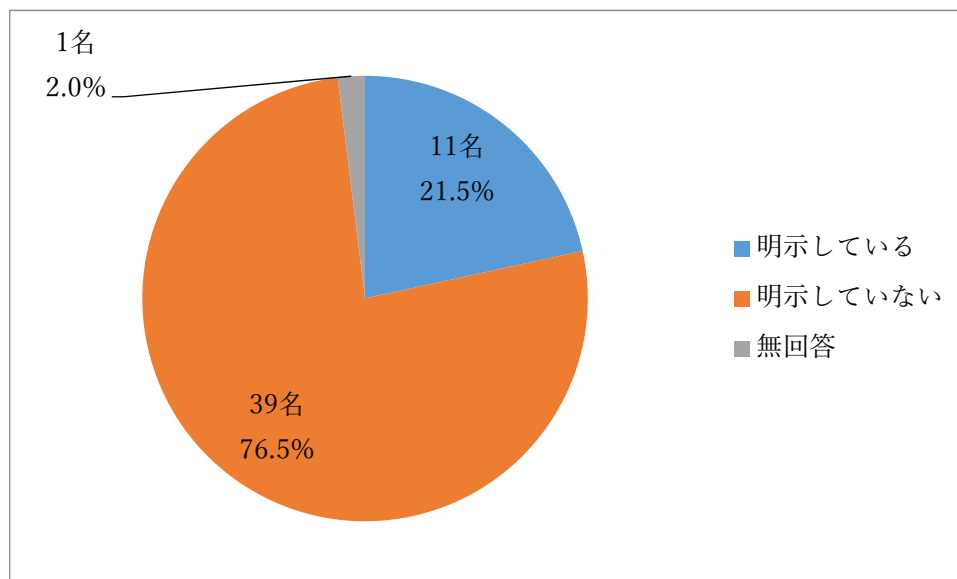


問19 飼い猫に、飼い主が誰であるかわかるよう所有者の明示をしていますか。
(n=51)

【調査結果】

・「明示している」11名(21.5%)に対し、「明示していない」は39名(76.5%)であった。

【全体】

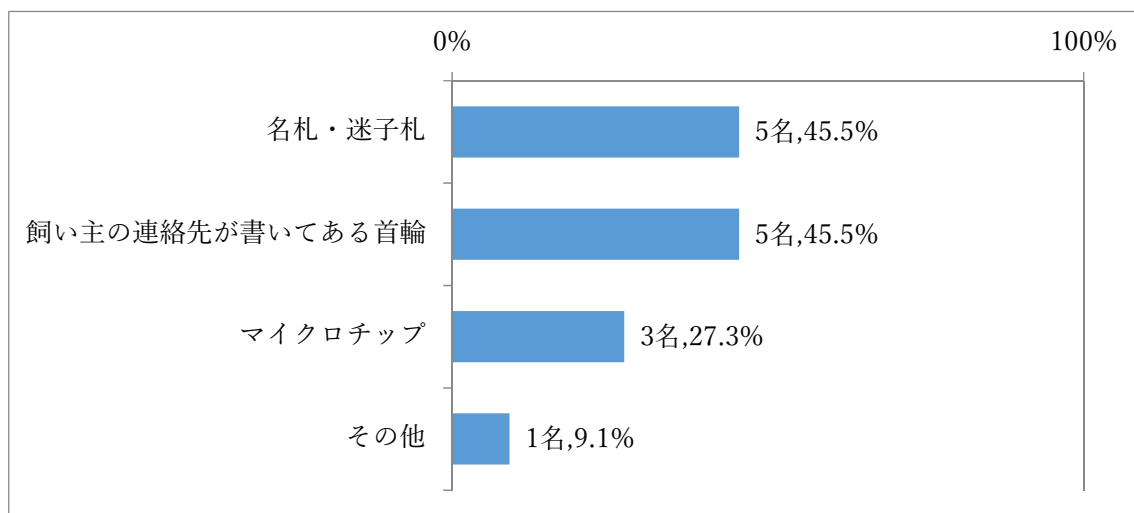


問20 問19で「ア 明示している」を選択された方にお聞きします。
どのような方法で明示していますか。(n=11)【複数回答有】

【調査結果】

・「名札・迷子札」が5名(45.5%)、「飼い主の連絡先が書いてある首輪」が5名(45.5%)、「マイクロチップ」が3名(27.3%)の順であった。

【全体】

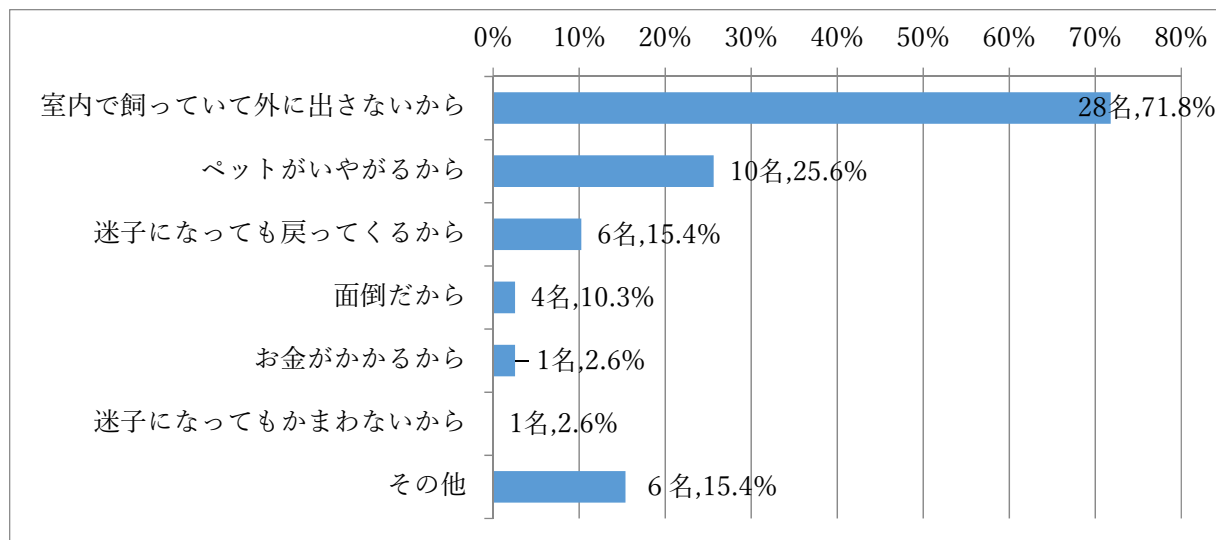


問21 問19「イ 明示していない」を選択された方にお聞きします。
明示していない理由はなんですか。(n=39)【複数回答有】

【調査結果】

・「室内で飼っていて外に出さないから」が28名(71.8%)と最も高く、「ペットがいやがるから」が10名(25.6%)、「迷子になっても戻ってくるから」が6名(15.4%)の順であった。

【全体】



問22 あなたは猫をどのように飼っていますか。(n=51)

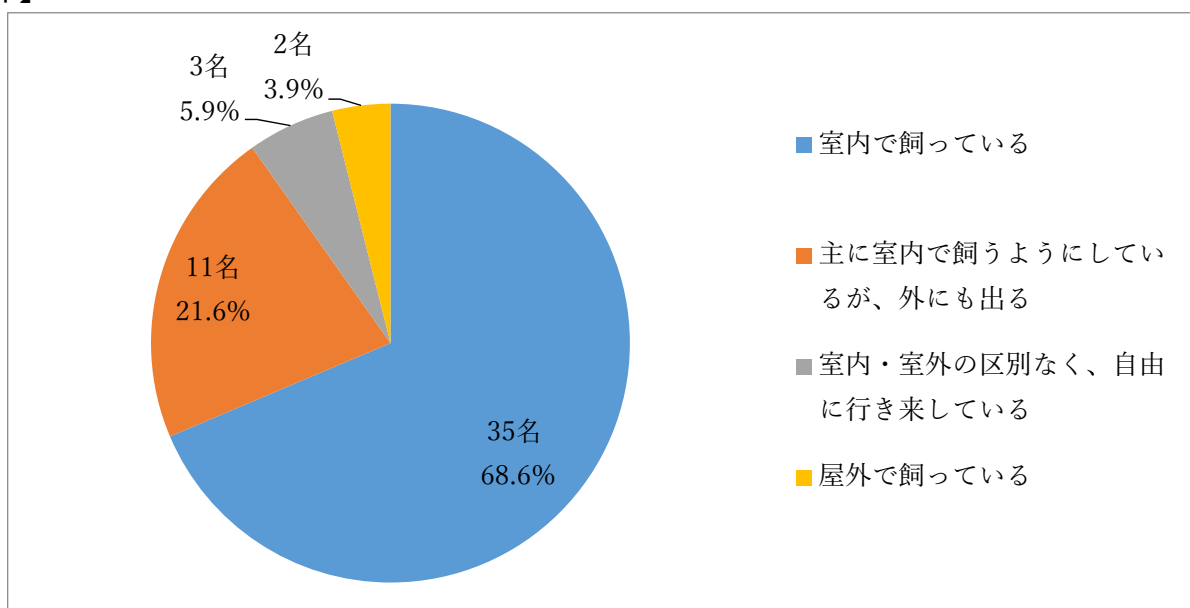
【調査結果】

・「室内で飼っている」が 35 名 (68.6%)、「主に室内で飼うようにしているが、外にも出る」が 11 名 (21.6%)、「室内・室外の区別なく、自由に行き来している」が 3 名 (5.9%) の順であった。

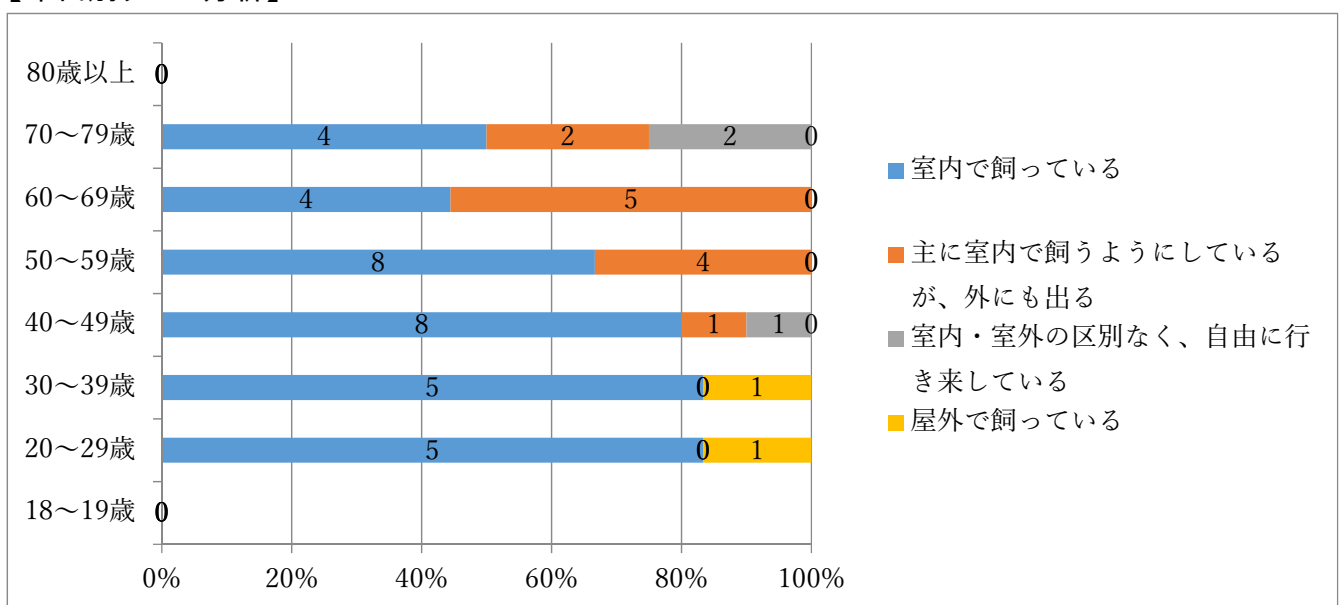
・年齢別でみると、20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳において半数以上が「室内で飼っている」であった。

・周辺環境別でみると、市街地では、「室内で飼っている」が 9 名 (75.0%)、「室内・室外の区別なく、自由に行き来している」が 3 名 (25.0%) である一方で、郊外では、「室内で飼っている」が 23 名 (63.9%)、「主に室内で飼うようにしているが、外にも出る」が 9 名 (25.0%)、「室内・室外の区別なく、自由に行き来している」が 3 名 (8.3%) であった。

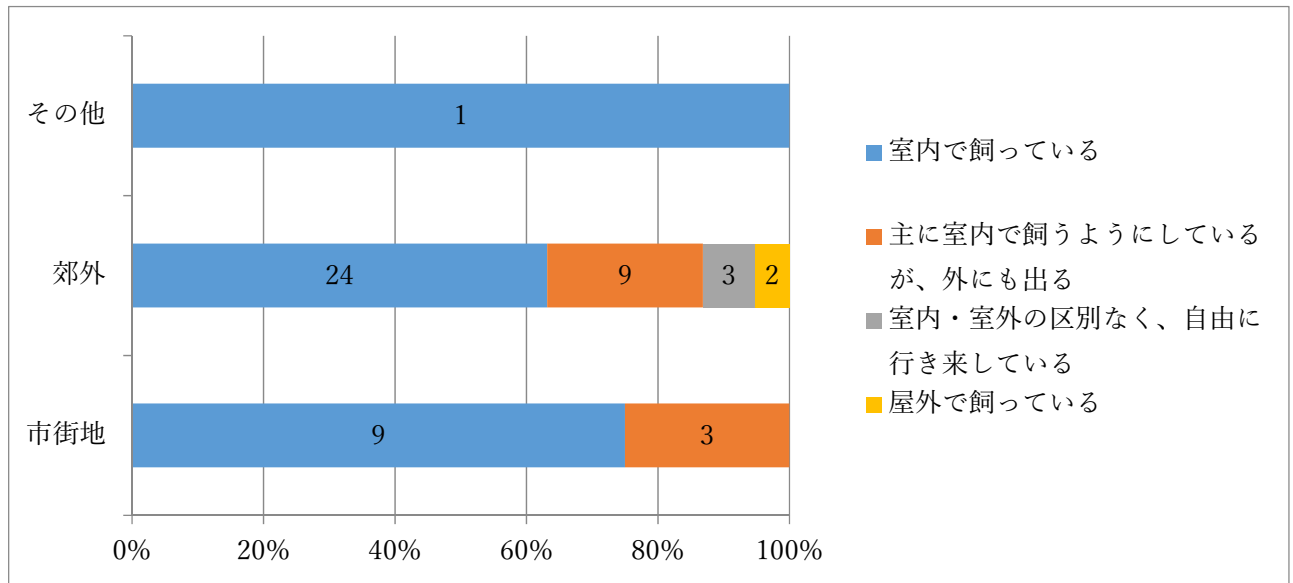
【全体】



【年代別クロス分析】



【周辺環境別クロス分析】

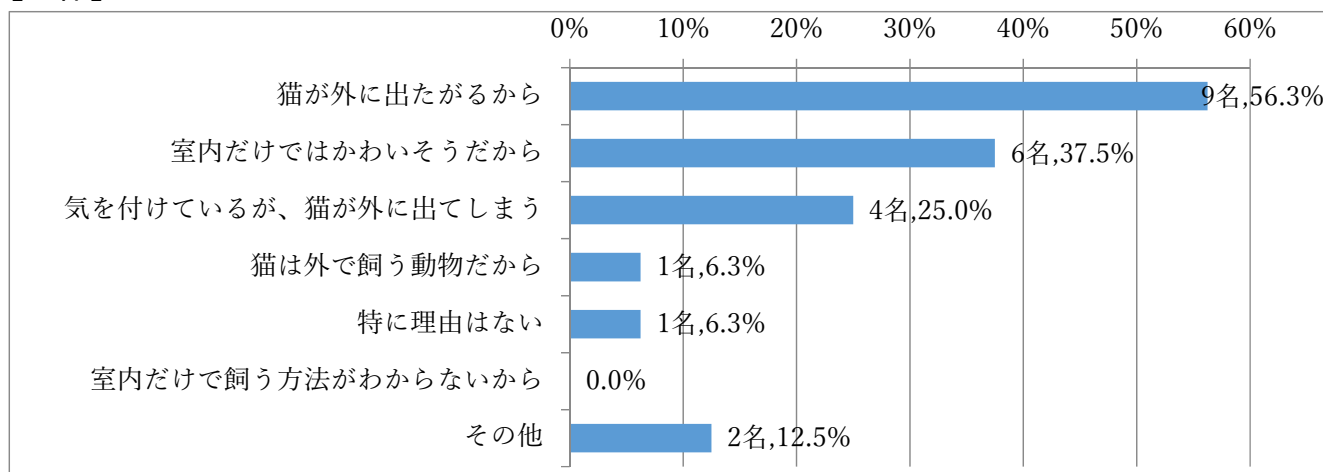


問23 問22で「イ 主に室内で飼うようにしているが、外にも出る」、「ウ 区別なく、自由に行き来している」「エ 屋外で飼っている」を選択された方にお聞きします。猫を屋外へ出す理由はなんですか。（n=15）【複数回答有】

【調査結果】

・「猫に外に出たがるから」が 9 名 (56.3%) と最も高く、「室内だけではかわいそうだから」が 6 名 (37.5%)、「気を付けているが、猫が外に出てしまうから」が 4 名 (25.0%) の順であった。

【全体】



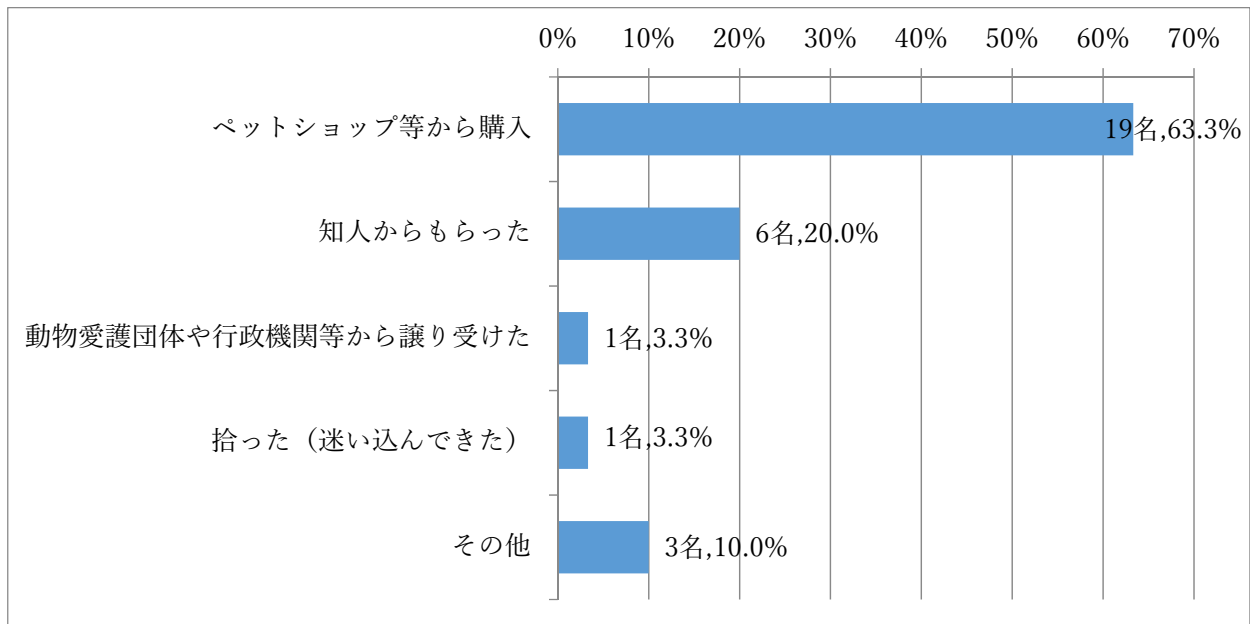
犬猫以外のペットを飼われている方にお尋ねします

問24 どのようにして（犬猫以外の）ペットを入手しましたか。（n=30）【複数回答有】

【調査結果】

・「ペットショップ等から購入」が 19 名 (63.3%) と最も高く、次が「知人からもらった」の 6 名 (20.0%) の順であった。

【全体】

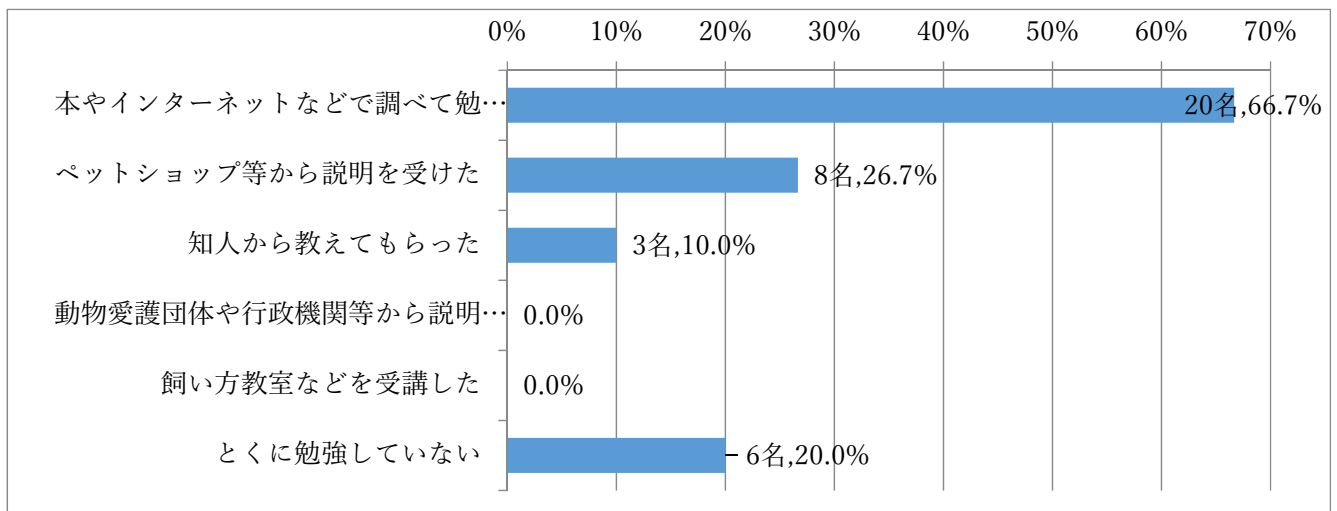


問25 ペットを飼う前に、その動物の特徴や性質、飼育方法をどのように知りましたか。
(n=30) 【複数回答有】

【調査結果】

・「本やインターネットなどで調べて勉強した」が 20 名 (66.7%) で最も高く、「ペットショップ等から説明を受けた」が 8 名 (26.7%)、「知人から教えてもらった」が 3 名 (10.0%) の順であった。「とくに勉強していない」人は 6 名 (20.0%) であった。

【全体】



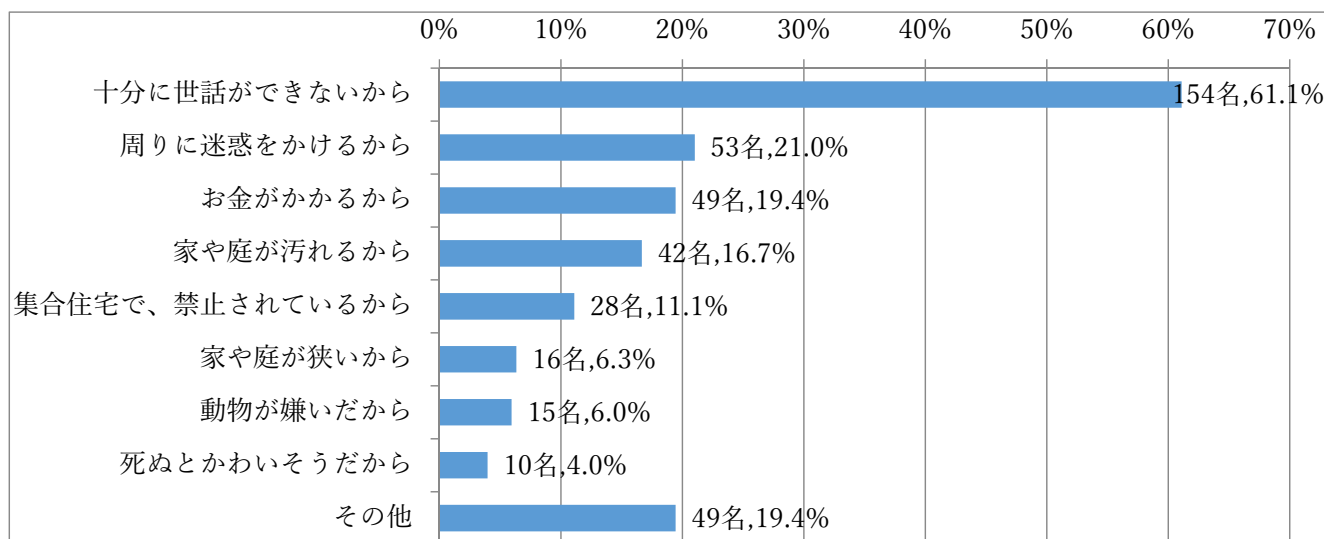
ペットを飼われていない方におたずねします

問26 問2で「イ 現在、ペットを飼っていない」を選択された方にお聞きします。
ペットを飼わない理由はなんですか。（n=252）【複数回答有】

【調査結果】

・「十分に世話ができないから」が 154 名 (61.1%) で最も高く、続いて、「周りに迷惑をかけるから」が 53 名 (21.0%)、「お金がかかるから」49 名 (19.4%)、「家や庭が汚れるから」が 42 名 (16.7%) の順であった。

【全体】



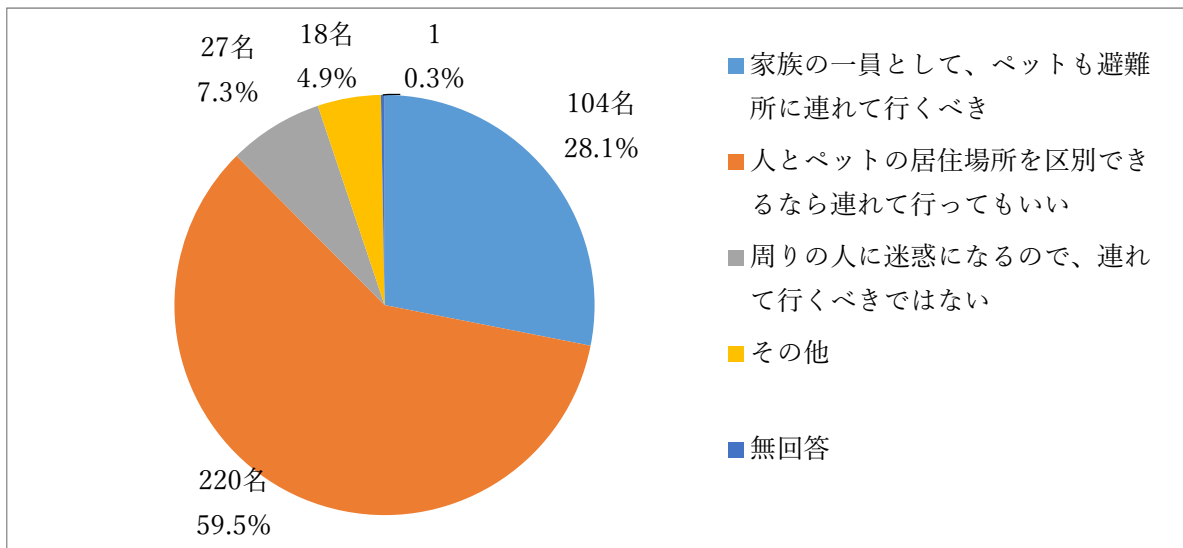
すべての方におたずねします

問27 被災して避難しなければならなくなったときに、避難所にペットも一緒に避難することについてどう思いますか。(n=370)

【調査結果】

・「人とペットの居住場所を区別できるなら連れて行ってもいい」が220名(59.51%)で最も高く、「家族の一員として、ペットも避難所に連れて行くべき」が104名(28.1%)、「周りの人に迷惑になるので、連れて行くべきではない」が27名(7.3%)の順であった。

【全体】

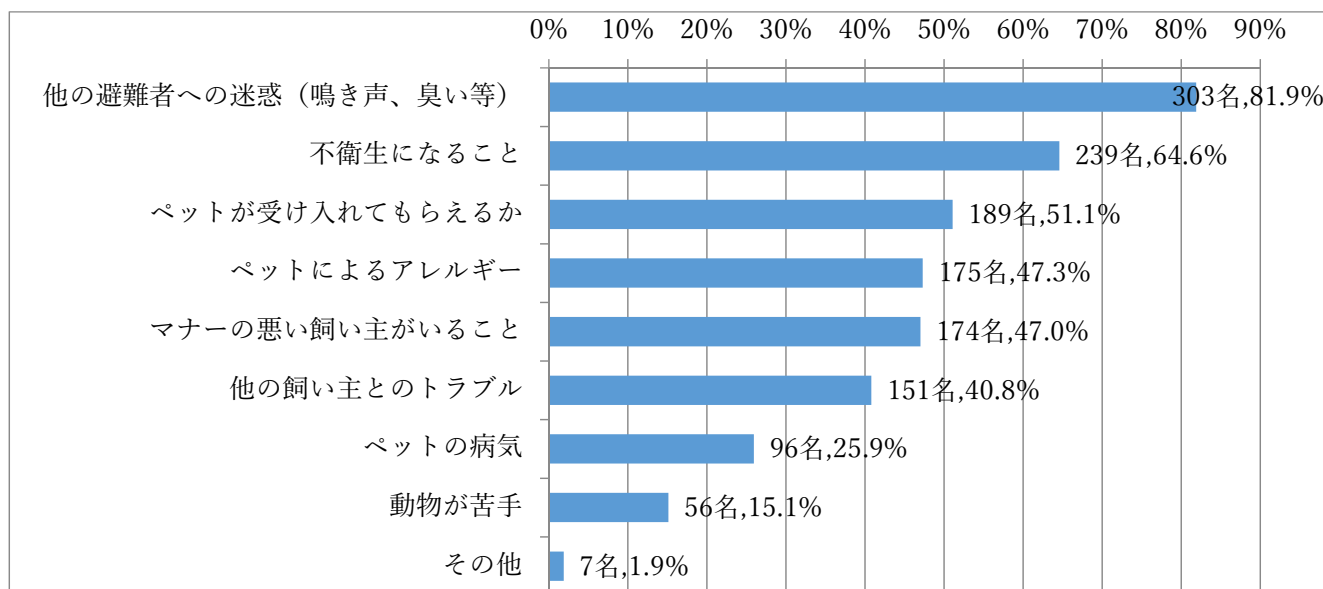


問28 避難所にペットと飼い主と一緒に避難することについて、心配だと思うことは何ですか。(n=370) 【複数回答有】

【調査結果】

・「他の避難者への迷惑(鳴き声、臭い等)」が303名(81.9%)で最も高く、「不衛生になること(ふん尿、ノミやダニ、感染症)」が239名(64.6%)、「マナーの悪い飼い主がいること」が174名(47.3%)の順で続いた。

【全体】



※不衛生になること：ふん尿、ノミやダニ、感染症

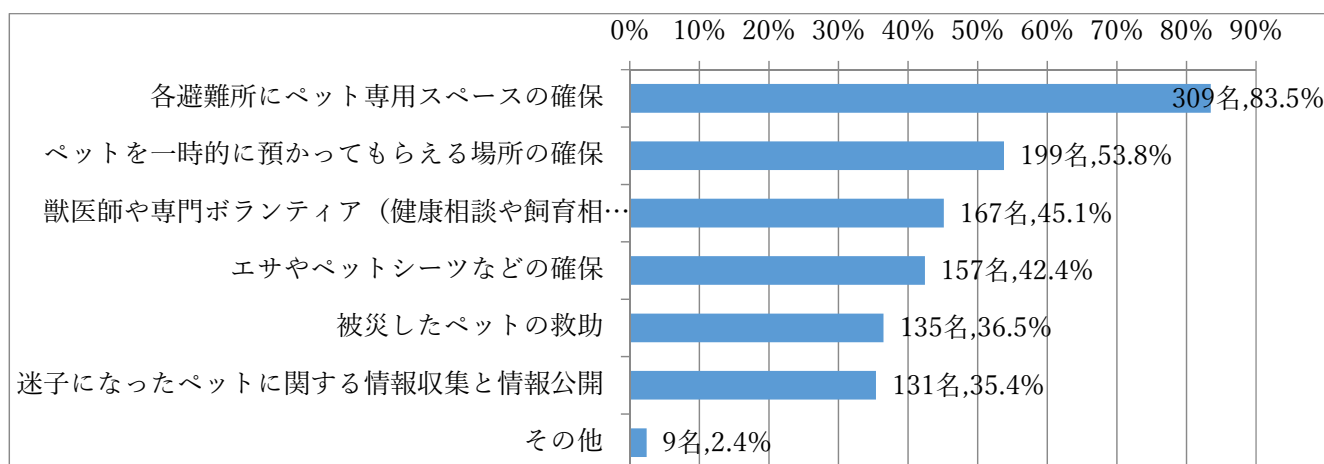
問29 災害時にペットに関係することで行政に望むものは何ですか。

(n=370) 【複数回答有】

【調査結果】

・「各避難所にペット専用スペースの確保」が 309 名(83.5%)と最も高く、「ペットを一時的に預かってもらえる場所」が 199 名(53.8%)、「獣医師や専門ボランティア(健康相談や飼育相談の窓口)の確保」が 167 名(45.1%)の順で続いた。

【全体】

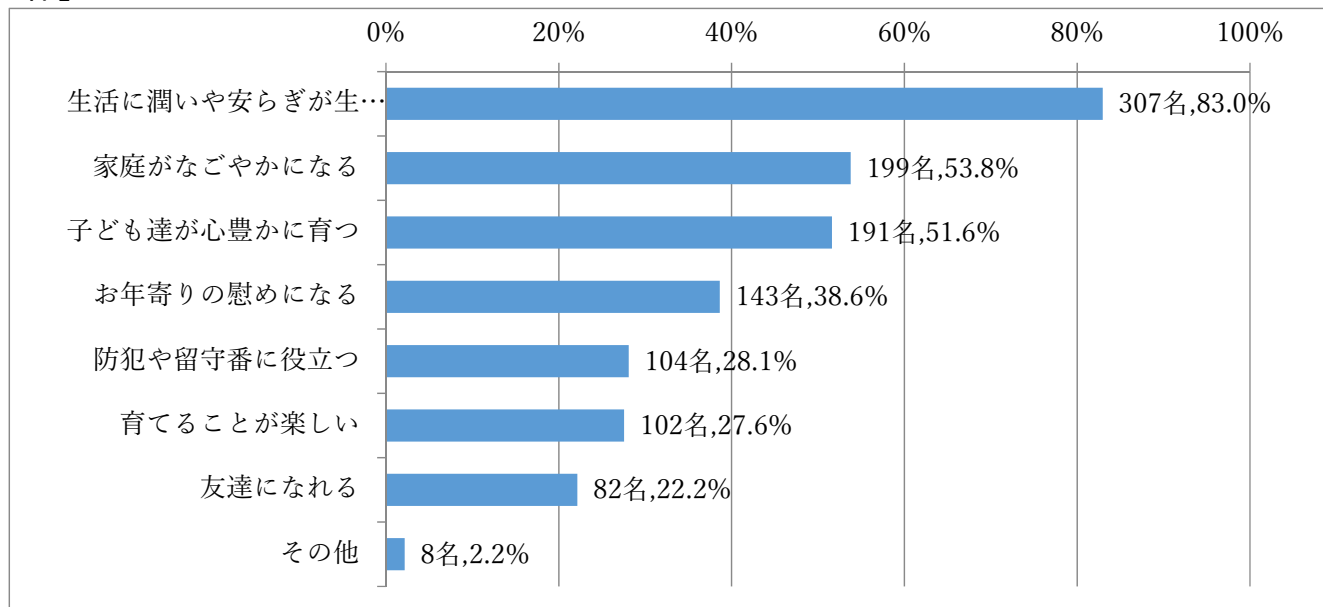


問30 ペットを飼うことについて、よい(メリット)と思うことはどのようなことですか。
(n=370) 【複数回答有】

【調査結果】

・「生活に潤いや安らぎが生まれる」が307名(83.0%)と最も高く、「家庭がなごやかになる」が199名(53.8%)、「子ども達が心豊かに育つ」が191名(51.6%)の順で高かった。

【全体】

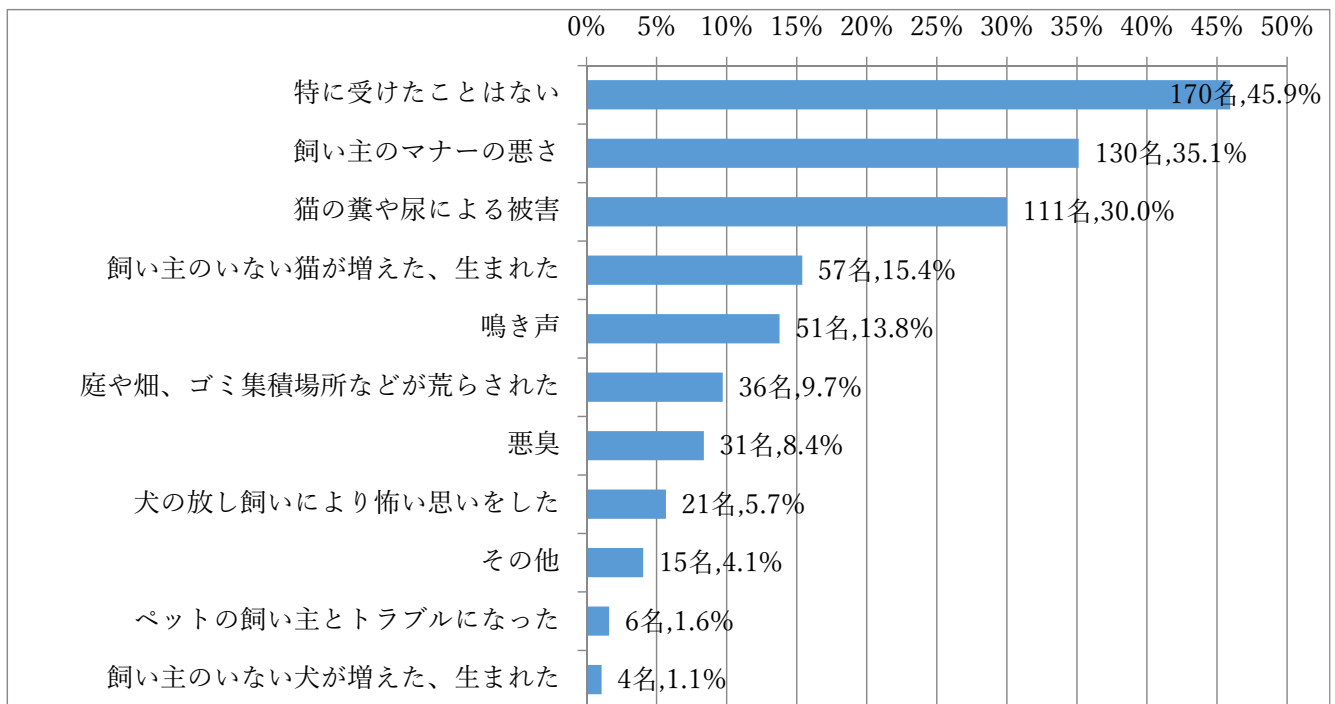


問3 1 ここ1、2年の間に犬や猫などの動物から被害を受けた、不快な思いをした等のようなことがありますか。(n=370)【複数回答有】

【調査結果】

・「特に受けたことはない」が170名(45.9%)であり、「(散歩している犬の糞の放置など)飼い主のマナーの悪さ」130名(35.1%)、「猫の糞や尿による被害」111名(30.0%)の順であった。

【全体】

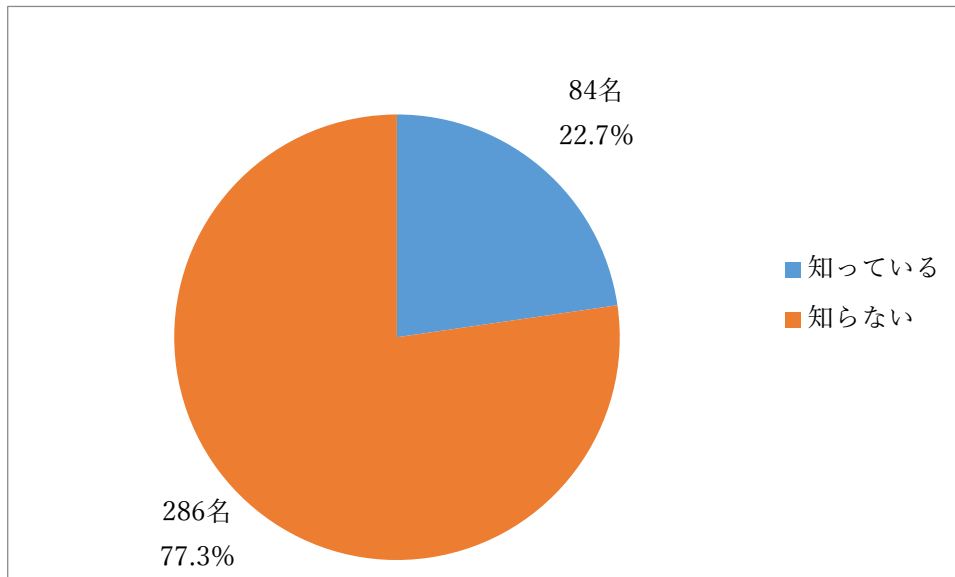


問3 2 「地域猫活動」を知っていますか。(n=370)

【調査結果】

・「知っている」が 84 名(22.7%)、「知らない」が 286 名(77.3%)であった。

【全体】

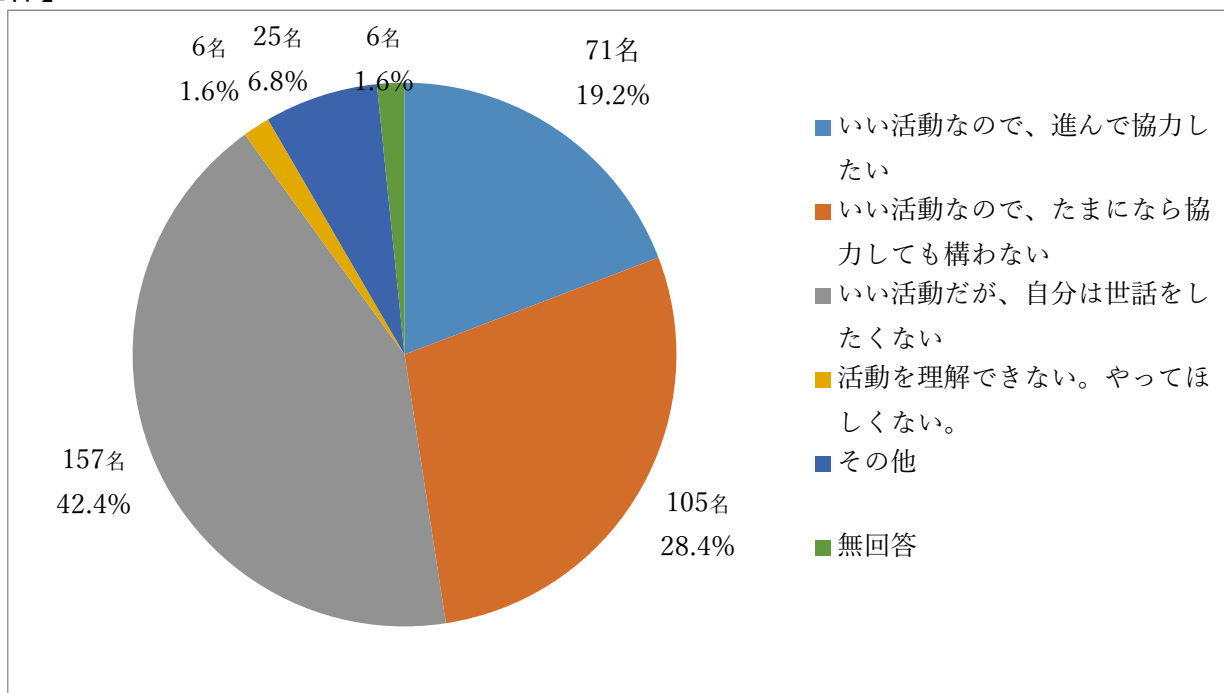


問33 地域猫活動とは、猫がこれ以上増えないように不妊去勢手術し、寿命を全うするまで地区の住民でエサ、トイレ等の管理をしながら、猫による環境への被害や苦情を減らしていく取り組みです。この活動について、どう思いますか。
(n=370)

【調査結果】

・「いい活動だが、自分は世話をしたくない」が 157 名(42.4%)で最も多く、「いい活動なので、たまになら協力しても構わない」が 105 名(28.4%)、「いい活動なので、進んで協力したい」が 71 名(19.2%)の順で高かった。

【全体】

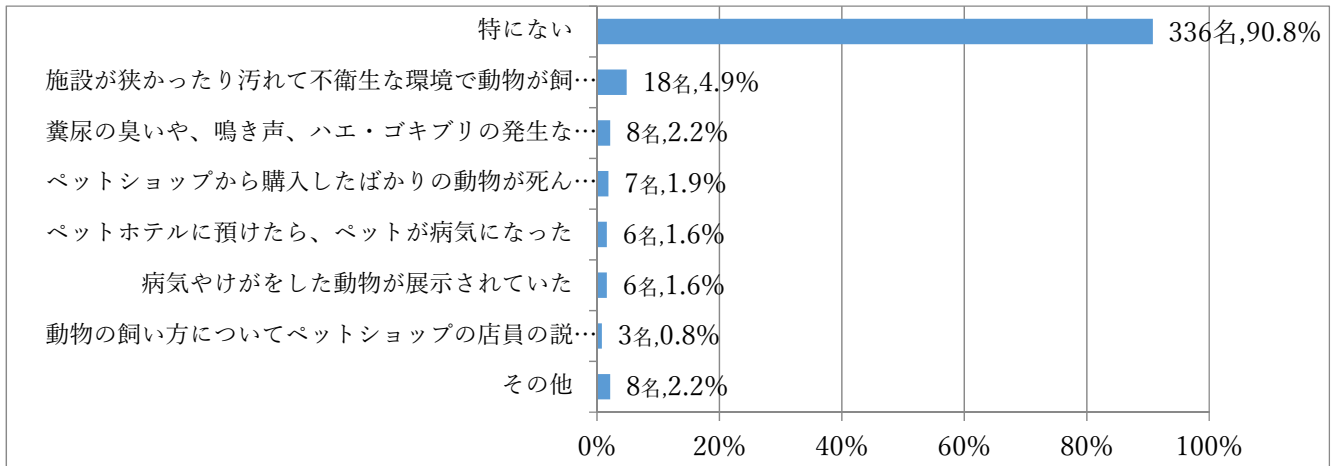


問34 ペットショップやペットホテル等の動物を取り扱う業者から、被害を受けた、不快な思いをした等のようなことがありましたか。（n=370）【複数回答有】

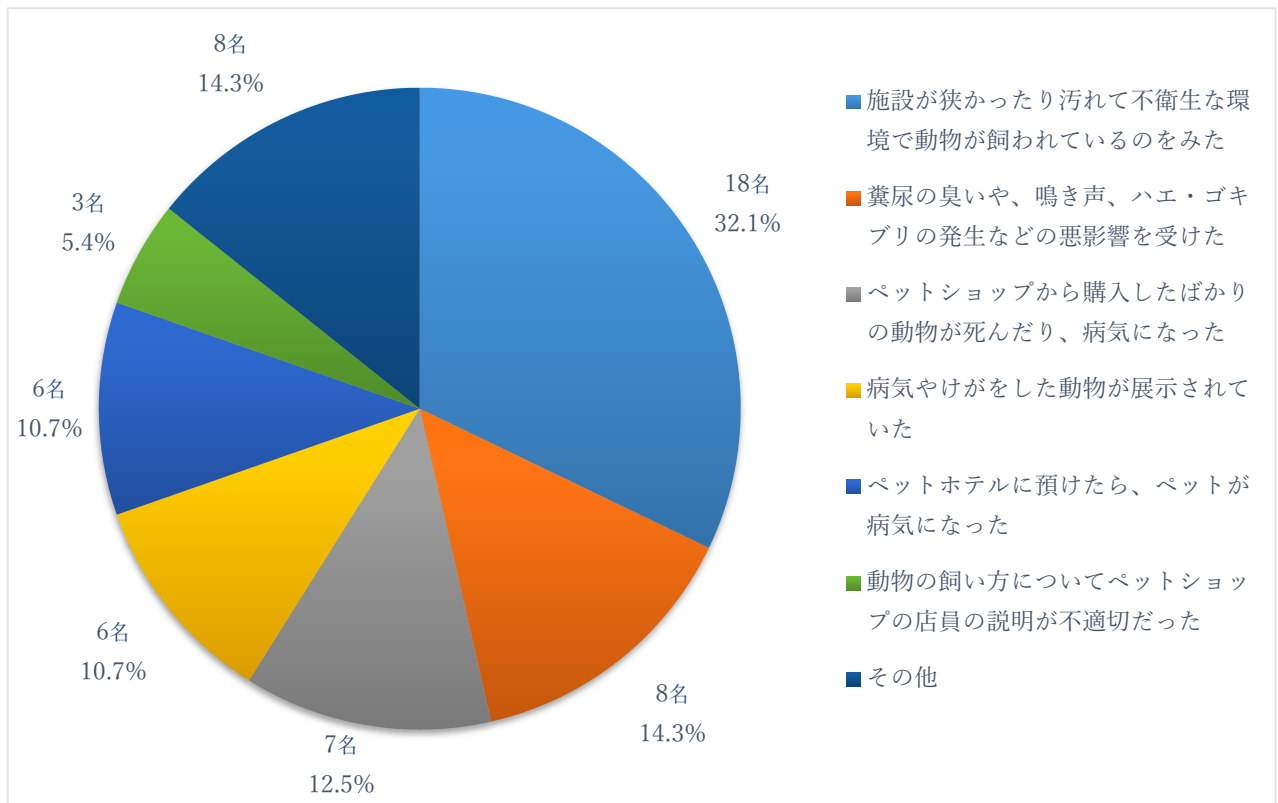
【調査結果】

- ・「特にない」が最も多く、336名(90.8%)であった。
- ・「施設が狭かったり汚れて不衛生な環境で動物が飼育されているのをみた」が18名(4.9%、被害等のうち32.1%)、「糞尿の臭いや、鳴き声、ハエ・ゴキブリの発生などの悪影響を受けた」が8名(2.2%、被害等のうち14.3%)で高かった。

【全体】



【被害や不快な思いをしたことがある場合の分析】



問35 ペットの愛護や適正な飼育の推進のために、行政が取り組むべきことは何だと思いますか。(n=370)【複数回答有】

【調査結果】

・「迷惑な飼い主への指導強化」が 226 名(61.1%)、「ペットの正しい飼い方の普及啓発」が 181 名(48.9%)、「犬・猫の不妊・去勢の促進、助成」が 173 名(46.8%)の順で高かった。

【全体】

